

第2章

要支援・要介護認定者と介護者の 生活と福祉に関する調査

第1節 要支援認定者調査

1 調査の概要

(1) 目的

要支援認定者の健康や生活の状況、医療・介護・福祉等に関するニーズ、介護保険制度に対する評価、介護者の状況等を把握し、次期介護保険事業計画等の施策立案に資する基礎資料を得ることを目的とした。

(2) 調査対象者

令和元年（2019年）8月31日時点の要支援認定者のうち、各要介護度から200人ずつを無作為抽出した計400人を調査対象者とした。

(3) 調査方法

上記対象者に対して、訪問面接調査を実施した。調査対象者（要支援認定者）本人による回答が難しい場合は、主に介護をしている家族等に回答してもらった。

(4) 実施期間

令和元年（2019年）9月15日～11月17日

(5) 調査完了状況

調査完了数： 297票（要支援1：150、要支援2：147） 回収率：74.3%

調査不能理由： 本人・家族等の拒否 72、不在 20、転居 3、その他 8

(6) 結果の集計に関する注意点

本調査では、要介護度ごとの傾向を把握するために、人数が少ない要介護度においても一定の有効回収数が得られるよう、全認定者における各要介護度の人数比率とは異なる標本数を割り当てて調査対象者を抽出した（各要介護度から200人ずつを抽出）。そのため集計にあたっては、要介護度ごとの回答結果が、実際の母集団（令和元年8月31日時点の認定者）の人数比率に応じて全体の結果に反映されるように、ウェイト値を乗じた標本数で集計している（ウェイトバック集計）。

・ ウェイト値の算出方法

ウェイト値＝（各介護度の認定者数÷各介護度の完了数）×（完了者総数÷認定者総数）

・ ウェイト値を乗じた(ウェイトバック)後の標本数は、要支援1:169人、要支援2:128人である。

(注) ウェイト値は少数第7位まで算出した。ウェイト値が整数でないため、ウェイトバック後の標本数も小数点以下を四捨五入している。そのため、集計によっては総数と合わない場合がある。

	認定者数 (8/31時点)	標本数	完了数	認定者数 完了数	ウェイト値	ウェイトバック 後の標本数
要支援1	1,197	200	150	7.9800000	1.1291377	169
要支援2	902	200	147	6.1360544	0.8682269	128

注)認定者数は、特別養護老人ホーム入居者を除外した人数を示している。

【集計を見る際の注意事項】

- ・ 「n」 は、回答者数を表す。
- ・ 集計にあたっては、要介護度ごとにウェイトをつけたウェイトバック集計を行っている。上述のように、ウェイト値は整数でないため、ウェイトバック後の標本数も小数点以下を四捨五入した値となっている。そのため、集計によっては総数と合わない場合がある。
- ・ 調査結果の回答比率(%)は、ウェイトバック集計後の数値である。
- ・ 複数回答（2つ以上回答を選んでもよい設問）の場合は（複数回答）と記すが、特に記載のない場合は、単数回答（1つだけ回答を選ぶ設問）である。
- ・ 回答比率(%)は小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示している。そのため、単数回答であっても、合計が100.0%にならない場合がある。
- ・ 複数回答の場合は、合計が100.0%を超える場合がある。
- ・ 表やグラフでは、表示の都合上、調査票の選択肢の文言を簡略化しているものもある。
- ・ 属性別のクロス集計結果は、回答者の属性が不明な場合は除外して表示しているため、属性別の人数の合計が回答者の総数と一致しない場合がある。

2 回答者、要支援認定者の属性

問 1 あなた(回答者)は、〇〇さん(要支援認定者) ご本人ですか。それとも、お世話や家事を「主にしている人」または「手伝っている人」ですか。

(本人ではない人が回答している場合)

副問 1 あなた(回答者)は、〇〇さんからみて、どなたにあたりますか。

副問 2 回答者の性別

調査対象者(要支援認定者)本人による回答は94.9%、お世話を「主にしている人」による回答は5.1%であった。要支援1と比べて要支援2では、本人回答が少なかった。

本人ではない人(主にお世話をしている人)が回答している場合は、「配偶者」による回答の割合が最も高く(33.3%)、次いで「息子(既婚)」と「娘(既婚)」がそれぞれ20.0%であった。要支援2では、要支援1と比べて「配偶者」が回答する割合が低かった。

本人ではない人(主にお世話をしている人)が回答している場合、「女性」による回答が64.3%であった。

回答者

	人数	本人	主にしている人
総数	297	94.9%	5.1%
要支援1	169	97.1%	2.9%
要支援2	128	92.1%	7.9%

(本人ではない人が回答している場合) 本人からみた回答者の続柄

	人数	配偶者	息子 (既婚)	息子 (未婚)	娘 (既婚)	娘 (未婚)	嫁
総数	15	33.3%	20.0%	6.7%	20.0%	6.7%	13.3%
要支援1	4	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
要支援2	11	27.3%	9.1%	9.1%	27.3%	9.1%	18.2%

(本人ではない人が回答している場合) 回答者の性別

	人数	男性	女性
総数	15	35.7%	64.3%
要支援1	4	50.0%	50.0%
要支援2	11	30.0%	70.0%

問2 要支援認定者の性別

問3 要支援認定者の年齢

問4 要支援認定者の居住場所

(自宅または親戚宅と回答した場合) 副問 住居形態

要支援認定者の性別は、「女性」が67.6%であった。要支援2の方が要支援1より女性の割合が高かった。この割合は、平成25年・平成28年の調査結果と同程度であった。

年齢は「80歳以上」が73.5%であった。「80歳以上」の割合は、平成25年は70%、平成28年は75%であったので、概ね70～75%で推移していた。

居住場所は「自宅(親戚宅も含む)」が96.6%と最多で、「有料老人ホーム」「高齢者向け賃貸住宅(サービス付き高齢者住宅)」「養護老人ホーム、軽費老人ホーム、ケアハウス」は合計で3.0%であった。この割合は、平成25年・平成28年の調査と同程度であった。

住居は「持ち家(一戸建て)」が68.4%と最多で、「持ち家(分譲マンション等)」と合わせると、自宅(親戚宅も含む)に居住する要支援認定者の76.8%が持ち家に住んでいた。

要支援認定者の性別

	人数	男性	女性
総数	297	32.4%	67.6%
要支援1	169	38.5%	61.5%
要支援2	128	24.4%	75.6%

要支援認定者の年齢階級

	人数	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～90歳	90歳以上
総数	297	2.7%	8.1%	15.8%	24.6%	30.0%	18.9%
要支援1	169	2.9%	8.2%	17.6%	25.3%	30.0%	15.9%
要支援2	128	2.4%	7.9%	13.4%	23.6%	29.9%	22.8%

要支援認定者の居住場所

	人数	自宅 (親戚宅を 含む)	有料老人 ホーム	高齢者向け 賃貸住宅	養護・軽費 老人ホーム、 ケアハウス	その他
総数	297	96.6%	1.0%	1.0%	1.0%	0.3%
要支援1	169	97.0%	1.2%	0.6%	1.2%	0.0%
要支援2	128	96.1%	0.8%	1.6%	0.8%	0.8%

(自宅または親戚宅と回答した場合) 住居形態

	人数	持ち家 (戸建て)	持ち家 (分譲)	公営住宅	公社・UR (賃貸)	民間借家 (マンション・ 戸建て)	民間借家 (アパート・ 長屋建て)	その他
総数	287	68.4%	8.4%	9.5%	5.6%	1.8%	6.0%	0.4%
要支援1	164	66.7%	6.2%	10.5%	7.4%	1.9%	6.8%	0.6%
要支援2	123	70.7%	11.4%	8.1%	3.3%	1.6%	4.9%	0.0%

問5 現在、一緒に住んでいるご家族は、〇〇さん（要支援認定者）を含めて何人ですか。
 問6 一緒に住んでいる人すべてについて、〇〇さんからみた続柄を教えてください。
 （複数回答）

要支援認定者の世帯員数は、「2人」が最多で44.1%、次いで「1人」が38.0%であった。「3人以上」は17.9%と少なかった。

同居者は、「配偶者」が40.1%と最多で、次いで「息子(未婚)」9.8%であった。

上記の情報に基づき分類した世帯構成は、「単身世帯」が38.0%、「夫婦二世帯」が32.9%であった。平成25年・平成28年の調査結果と比べると、単身世帯の割合は減少し（平成25年：42.7%、平成28年：40.9%）、夫婦二世帯の割合は増加していた（平成25年：18.9%、平成28年：24.5%）。

認定状況別では、「単身」または「夫婦二世帯」の割合は、要支援1、要支援2ともに7割を占めて大きな違いはなかったが、「三世帯」は要支援2の方が要支援1よりも割合が高かった。

世帯員数（本人も含む）

	人数	1人	2人	3人以上
総数	297	38.0%	44.1%	17.9%
要支援1	169	35.9%	49.4%	14.7%
要支援2	128	40.9%	37.0%	22.1%

同居者の続柄（複数回答）

	人数	配偶者	息子 (既婚)	息子 (未婚)	娘 (既婚)	娘 (未婚)	嫁	婿	孫	親	兄弟 姉妹	その他 親族	その他	同居者 なし
総数	297	40.1%	6.1%	9.8%	5.1%	6.1%	5.7%	5.0%	7.0%	0.0%	2.7%	1.3%	0.0%	38.0%
要支援1	169	43.2%	5.3%	10.7%	2.9%	4.7%	4.7%	2.9%	4.1%	0.0%	2.9%	1.8%	0.0%	35.9%
要支援2	128	35.9%	7.0%	8.7%	7.9%	7.9%	7.0%	7.8%	10.9%	0.0%	2.3%	0.8%	0.0%	40.9%

世帯構成

	人数	単身世帯	夫婦二世帯	子供と二世帯	二世帯 (子と同居)	三世帯 (子・孫と同居)	その他
総数	297	38.0%	32.9%	9.7%	9.4%	7.0%	3.0%
要支援1	169	35.9%	37.6%	10.6%	8.2%	4.1%	3.5%
要支援2	128	40.9%	26.6%	8.5%	10.8%	10.9%	2.3%

3 介護・医療ニーズ

(1) 身体機能障害

- 問7 歩行は普通にできますか。
 問8 食事をするのに手助けが必要ですか。
 問9 着替えは普通にできますか。
 問10 入浴は普通にできますか。
 問11 排泄の手助けは必要ですか。

「歩行」「食事」「着替え」「入浴」「排泄」の5項目の日常生活動作（ADL）について、介助を必要とする人の割合を調べた。介助を要する人の割合が最も高かったのは「歩行」で、一部または全面的な介助を要する人は12.1%であった。歩行以外で一部または全面的な介助を要する人の割合は、「食事」0.3%、「着替え」2.8%、「入浴」6.6%、「排泄」2.3%となっていた。

平成25年の調査では、一部または全面的な介助を要する人は、「歩行」12.7%、「食事」0.6%、「着替え」3.7%、「入浴」10.8%、「排泄」2.5%であった。平成28年の調査では、一部または全面的な介助を要する人は、「歩行」14.0%、「食事」1.8%、「着替え」3.5%、「入浴」10.5%、「排泄」2.6%であった。年によって多少の変動はあるものの、概ね同程度で推移していた。

全ての項目について、要支援1よりも要支援2の方が「一部介助/全面介助」の割合が高くなっていた。

歩行

	人数	ひとりで歩ける (杖などは使わない)	杖などがあれば、ひとりで歩ける	物につかまれば歩ける 介助されれば歩ける (一部介助)	ほとんど歩けない、まったく歩けない (全面介助)	無回答
総数	297	43.5%	44.5%	10.8%	1.3%	0.0%
要支援1	169	54.7%	38.0%	6.7%	0.7%	0.0%
要支援2	128	28.6%	53.1%	16.3%	2.0%	0.0%

食事

	人数	ひとりで普通に食べられる	調理を工夫したり、スプーンなどを使えばひとりで食べられる	食べる時に一部手助けが必要	全面的に介助して食べさせてもらっている (経管栄養などを含む)	無回答
総数	297	97.5%	2.2%	0.0%	0.3%	0.0%
要支援1	169	98.7%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%
要支援2	128	95.9%	3.4%	0.0%	0.7%	0.0%

着替え

	人数	普通に できる	ひとりで なんとかで きるが時間 がかかる	ボタンかけ など、一部 手伝いがな ければ着替 えられない	全面的に 介助が必要	無回答
総数	297	81.9%	15.3%	2.2%	0.6%	0.0%
要支援 1	169	84.7%	14.0%	1.3%	0.0%	0.0%
要支援 2	128	78.2%	17.0%	3.4%	1.4%	0.0%

入浴

	人数	普通に 入れる	ひとりで なんとか 入れる	浴槽の出入りや 体を洗うのに 一部介助が必要	全面的に 介助が必要、 または入浴 できないので 体を拭くのみ	無回答
総数	297	67.7%	25.6%	4.4%	2.2%	0.0%
要支援 1	169	74.7%	21.3%	2.7%	1.3%	0.0%
要支援 2	128	58.5%	31.3%	6.8%	3.4%	0.0%

排泄

	人数	普通に できる	ひとりで なんとか できる	一部介助が 必要	全面的に 介助が必要	無回答
総数	297	83.9%	13.8%	0.7%	1.6%	0.0%
要支援 1	169	86.7%	11.3%	0.7%	1.3%	0.0%
要支援 2	128	80.3%	17.0%	0.7%	2.0%	0.0%

- 問 12 部屋の掃除はできますか。
 問 13 洗濯はできますか。
 問 14 食事のしたくはできますか。
 問 15 買い物はできますか。
 問 16 請求書の支払いはできますか。
 問 17 預貯金の出し入れはできますか。

「部屋の掃除」「洗濯」「食事のしたく」「買い物」「請求書の支払い」「預貯金の出し入れ」の6項目の手段的日常生活動作（IADL）について、介助を必要とする人の割合を調べた。介助を要する人の割合が高かったのは「部屋の掃除」と「買い物」で、一部または全面的な介助を要する人はそれぞれ42.9%と49.4%であった。それ以外で一部または全面的な介助を要する人の割合は、「洗濯」25.4%、「食事のしたく」32.3%、「請求書の支払い」19.9%、「預貯金の出し入れ」20.8%であった。

平成25年・平成28年の調査でも「部屋の掃除」と「買い物」で一部または全面的な介助を要する人が多かったが、「部屋の掃除」に介助を要する人は、平成25年は48.2%、平成28年は40.4%、「買い物」に介助を要する人は、平成25年は46.9%、平成28年は41.0%で、年によって変動があるが、要支援認定者の4割は「掃除」と「買い物」に介助を要していると言える。

認定状況別にみると、全ての項目で、要支援1に比べて要支援2で介助を要する人が多かった。特に「部屋の掃除」と「買い物」に介助を要する人が、要支援2では5割を超えていた。

部屋の掃除

	人数	できる	できるけど していない	一部手助け が必要	全面的に 手助けが必要	無回答
総数	297	44.0%	11.7%	24.6%	18.3%	1.4%
要支援1	169	50.0%	13.3%	20.0%	14.7%	2.0%
要支援2	128	36.1%	9.5%	30.6%	23.1%	0.7%

洗濯

	人数	できる	できるけど していない	一部手助け が必要	全面的に 手助けが必要	無回答
総数	297	63.0%	10.9%	13.4%	12.0%	0.7%
要支援1	169	67.3%	12.0%	8.7%	11.3%	0.7%
要支援2	128	57.1%	9.5%	19.7%	12.9%	0.7%

食事のしたく

	人数	できる	できるけど していない	一部手助け が必要	全面的に 手助けが必要	無回答
総数	297	50.8%	15.9%	16.8%	15.5%	1.1%
要支援 1	169	52.7%	18.7%	12.0%	15.3%	1.3%
要支援 2	128	48.3%	12.2%	23.1%	15.6%	0.7%

買い物

	人数	できる	できるけど していない	一部手助け が必要	全面的に 手助けが必要	無回答
総数	297	44.3%	5.8%	28.3%	21.1%	0.4%
要支援 1	169	48.0%	6.7%	28.7%	16.0%	0.7%
要支援 2	128	39.5%	4.8%	27.9%	27.9%	0.0%

請求書の支払い

	人数	できる	できるけど していない	一部手助け が必要	全面的に 手助けが必要	無回答
総数	297	70.6%	9.1%	7.9%	12.0%	0.4%
要支援 1	169	72.0%	9.3%	6.7%	11.3%	0.7%
要支援 2	128	68.7%	8.8%	9.5%	12.9%	0.0%

預貯金のおし入れ

	人数	できる	できるけど していない	一部手助け が必要	全面的に 手助けが必要	無回答
総数	297	67.1%	11.6%	9.2%	11.6%	0.4%
要支援 1	169	68.0%	10.7%	10.0%	10.7%	0.7%
要支援 2	128	66.0%	12.9%	8.2%	12.9%	0.0%

問 18 ふだんの生活の様子は、次のうちのどれに一番近いですか。

「自分でバスや電車を使って外出するか、あるいはそれ以上に活発である」という人が 44.9%、「家庭内で自分のことはできるが、外出は隣近所まで」という人が 39.9%であった。「バスや電車を使って外出」できる人は、要支援 1 では半数を占めていたが、要支援 2 では 4 割弱であった。

日常生活動作（ADL）の 5 項目と「ふだんの生活の様子」の回答状況に基づいて身体的な障害の重症度を分類した結果、「障害なし」が 81.7%、「軽度」12.5%、「中度」3.0%、「重度」2.9%であった。

身体的な「障害なし」または「軽度」の割合は、平成 25 年は 92.5%、平成 28 年は 91.7%であったので、年によって変動があるものの、概ね 9 割強で推移していた。

普段の生活の様子

	人 数	自分でバス、電車を使って 外出するか、それ以上に 活発	家庭内で自分のことはできる が、外出は隣近所まで	家の外には出ないが、 身の回りのことは何とか できる	身の回りのことは何とか できるが、日中でも 寝たり起きたりの生活	日中は寝たり起きたりで、 身の回りのこともほとんど できない	ほとんど、または まったくの寝たきり	無回 答
総数	297	44.9%	39.9%	10.7%	3.0%	1.3%	0.3%	0.0%
要支援 1	169	50.0%	36.7%	10.0%	2.7%	0.7%	0.0%	0.0%
要支援 2	128	38.1%	44.2%	11.6%	3.4%	2.0%	0.7%	0.0%

身体的障害の重症度

	人数	障害なし	軽度	中等度	重度	不明
総数	297	81.7%	12.5%	3.0%	2.9%	0.0%
要支援 1	169	87.3%	8.0%	2.7%	2.0%	0.0%
要支援 2	128	74.2%	18.4%	3.4%	4.1%	0.0%

注）重症度の分類方法は、次ページの表【身体的障害の重症度分類の基準】を参照

● 身体的障害の重症度分類の基準

重 度	次の1項目以上に該当する。 歩行……………ほとんど歩けない、まったく歩けない 食事……………全面的に介助(経管栄養を含む) 排泄……………全面的に介助が必要(常時おむつをしている場合を含む) 日常生活状態…ほとんど寝たきり、あるいは、まったくの寝たきり
中 度	「重度」以外で、次の1項目以上に該当する。 食事……………食べる時に一部手助けが必要 着替え……………全面的に介助 入浴……………全面的に介助を必要とするか、入浴できないので体を拭くのみ 排泄……………便器に腰かける時、または便器の用意・後片づけ等に一部介助が必要 日常生活状態…日中は寝たり起きたりで、身の回りのこともほとんどできない
軽 度	「重度」「中度」以外で、次の1項目以上に該当する。 歩行……………物につかまれば歩ける、介助されれば歩ける 食事……………食べる時に一部手助けが必要 着替え……………ボタンかけなど、一部手伝わなければ着替えられない 入浴……………浴槽の出入りや体を洗うのに一部介助が必要 日常生活状態…身の回りのことは何とかできるが、日中でも寝たり起きたりの生活である
な し	上記の項目のいずれにも該当しない

注) 分類基準の出典は、『高齢者の家族介護と介護サービスニーズ』東京都老人総合研究所社会福祉部門編
(1996)を参照

(2) 認知機能障害

問 19-1 5分前のことが思い出せますか。

問 19-2 食事をしたり、衣服を選ぶなど、その日の活動を自分で判断できますか。

問 19-3 人に自分の考えをうまく伝えられますか。

5分前のことが思い出せない人（「いいえ」と答えた人）は8.5%、活動を自分で判断することが「ほとんどできない」または「判断する時に他人からの合図や見守りが必要」という人は3.2%、自分の考えを「あまり」または「ほとんど伝えられない」人が2.1%であった。

この3項目を用いて認知機能障害の程度をCPS(Cognitive Performance Scale)という指標に準じて評価した結果、「認知機能障害なし」が72.0%、「境界的」15.0%、「軽度」9.5%、「中等度以上」3.5%であった。平成28年の調査では、「認知機能障害なし」68.3%、「境界的」20.5%、「軽度」7.8%、「中等度以上」2.8%で、概ね同様の傾向であった。

5分前のことが思い出せますか

	人数	はい	いいえ	無回答
総数	297	89.0%	8.5%	2.5%
要支援1	169	87.3%	9.3%	3.3%
要支援2	128	91.2%	7.5%	1.4%

食事をしたり、衣服を選ぶなど、その日の活動を自分で判断できますか

	人数	困難なく できる	いくらか困難 であるが、 できる	他人からの 合図や見守り が必要	ほとんど 判断できない
総数	297	82.2%	14.6%	2.6%	0.6%
要支援1	169	82.7%	13.3%	4.0%	0.0%
要支援2	128	81.6%	16.3%	0.7%	1.4%

人に自分の考えをうまく伝えられますか

	人数	伝えられる	いくらか困難 であるが、 伝えられる	あまり 伝えられない	ほとんど 伝えられない
総数	297	84.5%	13.4%	2.1%	0.0%
要支援1	169	82.0%	15.3%	2.7%	0.0%
要支援2	128	87.8%	10.9%	1.4%	0.0%

認知機能障害(CPS区分)

	人数	障害なし	境界的	軽度	中度以上
総数	297	72.0%	15.0%	9.5%	3.5%
要支援1	169	71.3%	14.0%	10.0%	4.7%
要支援2	128	72.8%	16.3%	8.8%	2.0%

(3) 通院・受療状況

問 20 現在、通院や往診など医師の診察を定期的に受けていますか。(複数回答)

(通院、往診、入院・入所している場合)

副問 どのような病気やケガで医師の診察を受けていますか。(複数回答)

要支援認定者の通院・受療状況は、「通院」している人が 94.4%と多く、「往診」は 1.0%、「入院・入所」1.3%、「医師の診察は受けていない」2.8%という状況であった。通院・受療状況は、要支援 1 と要支援 2 で大きな違いはみられなかった。

定期的に医師の診察を受けている人に、診察を受けている傷病名を複数回答で聞いたところ、割合が最も高かったのは「高血圧」の 47.2%であった。次いで、「骨粗しょう症、脊柱管狭窄症」29.7%、「眼の病気」26.5%であった。

通院・受療状況、傷病は、平成 25 年・平成 28 年の調査と同様の状況であった。

通院・受療状況 (複数回答)

	人数	通院している	往診してもらっている	入院・入所している	医師の診察は受けていない
総数	297	94.4%	1.0%	1.3%	2.8%
要支援 1	169	95.3%	0.7%	0.7%	3.3%
要支援 2	128	93.2%	1.4%	2.0%	2.0%

(通院、往診、入院・入所と回答した場合) 診察を受けている傷病名 (複数回答)

	人数	高血圧症	糖尿病	脳卒中	心臓病	ガン	認知症
総数	286	47.2%	17.6%	8.6%	17.4%	9.3%	1.5%
要支援 1	163	49.3%	20.8%	7.6%	16.7%	8.3%	2.1%
要支援 2	123	44.4%	13.4%	9.9%	18.3%	10.6%	0.7%
	人数	腎臓の病気	呼吸器の病気	膠原病 関節リウマチ	変形性 関節疾患	骨粗鬆症 脊柱管狭窄症	骨折 骨のひび
総数	286	6.3%	6.6%	3.8%	15.0%	29.7%	9.3%
要支援 1	163	4.2%	6.2%	3.5%	16.7%	25.0%	8.3%
要支援 2	123	9.2%	7.0%	4.2%	12.7%	35.9%	10.6%
	人数	パーキンソン病	難病	眼の病気	耳鼻科、 聴覚障害	その他の 病気	
総数	286	4.5%	0.3%	26.5%	9.2%	38.7%	
要支援 1	163	4.2%	0.0%	26.4%	7.6%	38.2%	
要支援 2	123	4.9%	0.7%	26.8%	11.3%	39.4%	

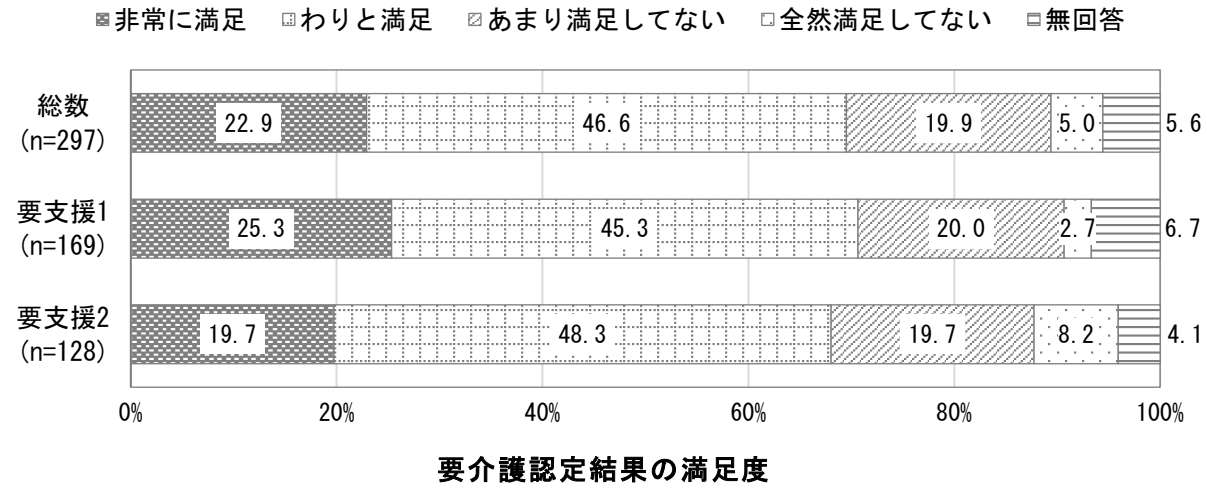
4 介護予防・介護保険・福祉サービスに関するニーズと評価

(1) 要介護認定

問 21 要介護認定の結果には、満足していますか。

認定結果には「非常に満足」22.9%、「わりと満足」46.6%で、要支援認定者の7割が肯定的に評価していた。平成25年は「非常に満足」21.1%、「わりと満足」51.4%、平成28年は「非常に満足」23.3%、「わりと満足」51.2%であり、認定結果に対する肯定的な評価は概ね7割程度で推移していた。

「あまり満足してない」「全然満足してない」と答えた人の割合は、要支援1で22.7%、要支援2で27.9%であり、要支援2の方が要支援1より満足していない人の割合が若干高かった。



(2) ケアマネジャー・ケアプラン

問 22 ホームヘルパーやデイサービスといった、さまざまな介護サービスを使えるようにしてくれるケアマネジャーや地域包括支援センターの職員がいますか。

(いると回答した場合)

副問 1 ケアマネジャーや地域包括支援センターの職員とは、どのくらいの頻度で連絡を取り合っていますか。訪問と電話の合計で、お答えください。

副問 2 全体的にみて、現在の担当ケアマネジャーや地域包括支援センターの職員の対応に、どの程度満足していますか。

要支援認定者のうち、ケアマネジャーが「いる」と回答したのは 80.0%で、認定を受けているにもかかわらず、ケアマネジャーを利用していないか、その存在を認識できていない人が 18.0%いた。ケアマネジャーが「いる」と回答した人は、平成 25 年は 74.0%、平成 28 年は 76.9%であったことから、微増する傾向がみられた。

ケアマネジャーがいると回答した人に、ケアマネジャーと連絡を取り合う頻度を質問したところ、「月に 1 回以上」は 50.7%で、約半数にとどまった。

ケアマネジャーに対する全体的な満足度は、「非常に満足」40.5%、「わりと満足」43.4%で、83.9%が肯定的な評価をしていた。「非常に/割と満足」の割合は、平成 25 年は 84.1%、平成 28 年は 86.7%で、概ね 85%前後で推移していた。

要支援 1 と要支援 2 でケアマネジャーに対する満足度に大きな違いは見られなかった。

ケアマネジャーの有無

	人数	いる	いない	無回答
総数	297	80.0%	18.0%	2.0%
要支援 1	169	74.7%	23.3%	2.0%
要支援 2	128	87.1%	10.9%	2.0%

→ (ケアマネジャーがいる場合) ケアマネジャーと連絡を取り合う頻度

	人数	月に 1 回以上	2、3 ヶ月に 1 回	年に 2、3 回	それより少ない	無回答
総数	238	50.7%	29.2%	7.7%	11.1%	1.3%
要支援 1	126	46.4%	29.5%	6.2%	16.1%	1.8%
要支援 2	112	55.5%	28.9%	9.4%	5.5%	0.8%

注) ケアマネジャーがいると答えた人に質問した。

→ (ケアマネジャーがいる場合) ケアマネジャーに対する満足度

	人数	非常に満足	わりと満足	あまり満足していない	全然満足していない	無回答
総数	238	40.5%	43.4%	9.5%	3.0%	3.6%
要支援 1	126	41.1%	41.1%	8.9%	3.6%	5.4%
要支援 2	112	39.8%	46.1%	10.2%	2.3%	1.6%

注) ケアマネジャーがいると答えた人に質問した。

問23 介護保険サービスを利用する前には、サービスの利用計画、いわゆるケアプランを作成する必要があります。全体的にみて、今のケアプランにどの程度満足していますか。

ケアプランに対する全体的な満足度は、「非常に満足」21.9%、「わりと満足」40.8%で、62.7%が肯定的な評価をしていた。

「非常に満足/わりと満足」の割合は、平成25年の調査では62.4%、平成28年は57.9%であったので、ケアプランに対する肯定的な評価は、概ね6割前後で推移していた。

ケアプランに対する満足度

	人数	非常に満足	わりと満足	あまり満足していない	全然満足していない	介護保険サービスを利用していない	無回答
総数	297	21.9%	40.8%	10.9%	3.7%	18.1%	4.6%
要支援1	169	22.0%	36.7%	9.3%	4.0%	22.0%	6.0%
要支援2	128	21.8%	46.3%	12.9%	3.4%	12.9%	2.7%

(3) ショートステイ（介護予防短期入所生活介護・短期入所療養介護）

問 24 ショートステイサービスをご存知でしたか。利用したことがありますか。

(利用したことがある場合)

副問 1 この1年間では、何回くらい利用しましたか。

副問 2 全体的にみて、ショートステイサービスにどの程度満足していますか。

副問 3 何回でも利用できるとしたら、今後、年に何回くらい利用したいですか。

また、制限がないならば、何日間まで利用したいですか。

(利用したことはない・知らなかった場合)

副問 4 現在、ショートステイを利用したいと思いますか。

(利用したい・利用を検討したい場合)

副副問 何回でも利用できるとしたら、今後、年に何回くらい利用したいですか。

また、制限がないならば、何日間まで利用したいですか。

要支援認定者のショートステイの利用率は1.9%であった（要支援1：1.3%、要支援2：2.7%）。平成25年・平成28年ともに2.5%であり、概ね2%程度で推移していた。

ショートステイ利用経験者の、この1年間における利用回数は「0回」が50.0%、「4回以上」が30.4%であった。

利用経験者のショートステイに対する満足度は、「非常に/わりと満足」が69.6%で、平成25年（57.2%）、平成28年（66.6%）より増加していた。

利用経験者の利用希望回数は、半数が利用しなくても良い（0回）と答えていたが、年に「10回以上」を希望する人も、半数程度いた。

ショートステイを利用したことがない人のうち、「すぐにでも利用したい」「利用を検討したい」という人は、6.2%であった。ショートステイを利用していないが利用希望のある人の3割は、年に「5回以上」、1回あたり「7日」の利用を希望していた。

ショートステイ利用状況

	人数	かつて利用したことがある (現在利用中も含む)	知っていたが、 利用したことはない	知らなかった	無回答
総数	297	1.9%	81.6%	15.5%	1.0%
要支援1	169	1.3%	80.0%	18.0%	0.7%
要支援2	128	2.7%	83.7%	12.2%	1.4%

副問1～3へ

副問4へ

(利用したことがあると回答した場合) この1年間のショートステイ利用回数(回/年)

	人数	0回	1回	4回	5回以上
総数	6	50.0%	19.7%	15.2%	15.2%
要支援1	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
要支援2	4	50.0%	0.0%	25.0%	25.0%

(利用したことがあると回答した場合) ショートステイ満足度

	人数	非常に満足	わりと満足	あまり満足してない	全然満足してない	無回答
総数	6	34.8%	34.8%	15.2%	0.0%	15.2%
要支援1	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
要支援2	4	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%

(利用したことがあると回答した場合) ショートステイ利用希望回数 (回/年)

	人数	0回	10回	12回	24回
総数	6	50.0%	19.7%	15.2%	15.2%
要支援1	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
要支援2	4	50.0%	0.0%	25.0%	25.0%

(利用したことがあると回答した場合) ショートステイ利用希望最長日数 (日/回)

	人数	0日	5日	何日でも
総数	6	50.0%	34.9%	15.2%
要支援1	2	50.0%	50.0%	0.0%
要支援2	4	50.0%	25.0%	25.0%

(利用したことはない・知らなかったと回答した場合) ショートステイ利用希望

	人数	すぐにでも利用したい	利用を検討したい	なるべく利用したくない	利用はまったく考えていない	現在は利用する必要がない	無回答
総数	288	1.1%	5.1%	10.2%	14.5%	67.5%	1.6%
要支援1	166	1.4%	4.1%	8.8%	14.3%	68.7%	2.7%
要支援2	122	0.7%	6.4%	12.1%	14.9%	66.0%	0.0%

(利用したい・検討したい場合) ショートステイ利用希望回数 (回/年)

	人数	1回	2回	3回	5回以上	わからない
総数	18	4.9%	16.2%	11.3%	35.2%	32.4%
要支援1	9	0.0%	12.5%	12.5%	50.0%	25.0%
要支援2	9	10.0%	20.0%	10.0%	20.0%	40.0%

(利用したい・検討したい場合) ショートステイ利用希望最長日数 (日/回)

	人数	2日	3日	4日	7日	わからない
総数	18	9.8%	16.2%	6.4%	33.8%	33.8%
要支援1	9	0.0%	12.5%	12.5%	37.5%	37.5%
要支援2	9	20.0%	20.0%	0.0%	30.0%	30.0%

(4) 訪問介護サービス（訪問型サービス）

問 25 ホームヘルパーをご存知でしたか。利用したことがありますか。

(現在利用している場合)

副問 1 この1週間では、何回くらい利用しましたか。

副問 2 その中で、介護保険以外のヘルパーの利用はありますか。保険外の利用は、全額自己負担です。

副問 3 1回あたりのホームヘルパーの利用時間は、だいたいどのくらいの時が多いですか。

副問 4 全体的にみて、ホームヘルプサービスにどの程度満足していますか。

副問 5 何回でも利用できるとしたら、今後、週に何回くらい利用したいですか。

(かつて利用・利用したことはない・知らなかった場合)

副問 6 現在、ホームヘルパーを利用したいと思いますか。

(利用したい・利用を検討したい場合)

副副問 何回でも利用できるとしたら、今後、週に何回くらい利用したいですか。

要支援認定者における訪問型サービスの利用率は26.2%（要支援1：23.3%、要支援2：29.9%）で、平成25年（33.7%）、平成28年（30.6%）と比べて、減少傾向であった。

現在利用している人の利用回数は、週に「1回」が78.6%で最多であった。介護保険以外のヘルパー利用が「ある」人は15.5%で、要支援2では22.7%であった。1回あたりの利用時間は「45～60分」が66.1%と最多であった。利用者の訪問介護に対する満足度は、「非常に/わりと満足」が85.2%で、平成25年（90.3%）や平成28年（90.0%）に比べると若干低下していた。利用者が希望する回数は、週に「1回」が60.9%と最多であった。

訪問型サービスを利用していない人のうち、「すぐにでも利用したい」「利用を検討したい」という人は10.8%（要支援1：11.4%、要支援2：9.9%）であった。利用していないが利用を希望・検討している人では、週に「1～2回」の利用を希望する割合が高かった。

訪問型サービスの利用状況

	人数	現在利用している	かつて利用したことがある	知っていたが、利用したことはない	知らなかった	無回答
総数	297	26.2%	4.8%	65.1%	3.0%	1.0%
要支援1	169	23.3%	3.3%	70.0%	2.7%	0.7%
要支援2	128	29.9%	6.8%	58.5%	3.4%	1.4%

副問 1～5 へ

副問 6 へ

(現在利用していると回答した場合) この1週間の訪問型サービスの利用回数（回/週）

	人数	0回	1回	2回	3回
総数	78	1.5%	78.6%	17.4%	2.6%
要支援1	40	2.9%	88.6%	5.7%	2.9%
要支援2	38	0.0%	68.2%	29.6%	2.3%

(現在利用していると回答した場合) 介護保険以外のヘルパー利用

	人数	ある	ない	わからない
総数	78	15.5%	80.8%	3.7%
要支援1	40	8.6%	88.6%	2.9%
要支援2	38	22.7%	72.7%	4.6%

(現在利用していると回答した場合) 1回あたりの訪問型サービスの利用時間

	人数	20～30分	30～45分	45～60分	60～90分	90分以上	不明
総数	78	1.1%	20.6%	66.1%	5.9%	4.8%	1.5%
要支援1	40	0.0%	22.8%	68.6%	2.9%	2.9%	2.9%
要支援2	38	2.3%	18.2%	63.6%	9.1%	6.8%	0.0%

(現在利用していると回答した場合) 訪問型サービスの満足度

	人数	非常に満足	わりと満足	あまり満足 していない	無回答
総数	78	43.0%	42.2%	12.2%	2.6%
要支援1	40	42.9%	45.7%	8.6%	2.9%
要支援2	38	43.2%	38.6%	15.9%	2.3%

(現在利用していると回答した場合) 訪問型サービスの利用希望回数(回/週)

	人数	1回	2回	3回	4回	何回でも
総数	78	60.9%	28.4%	6.3%	1.1%	3.4%
要支援1	40	71.4%	22.9%	5.7%	0.0%	0.0%
要支援2	38	50.0%	34.1%	6.8%	2.3%	6.8%

(かつて利用・利用したことはない・知らなかったと回答した場合) 訪問型サービスの利用希望

	人数	すぐにでも 利用したい	利用を検討 したい	なるべく 利用したく ない	利用は まったく 考えて いない	現在は 利用する 必要がない	無回答
総数	216	3.3%	7.5%	14.4%	9.8%	64.5%	0.5%
要支援1	129	3.5%	7.9%	11.4%	9.6%	66.7%	0.9%
要支援2	87	3.0%	6.9%	18.8%	9.9%	61.4%	0.0%

(利用したい・検討したい場合) 訪問型サービスの利用希望回数(回/週)

	人数	1回	2回	3回	何回でも	わからない
総数	23	36.8%	30.5%	4.8%	14.5%	13.4%
要支援1	14	23.1%	30.8%	7.7%	23.1%	15.4%
要支援2	9	60.0%	30.0%	0.0%	0.0%	10.0%

(5) 通所サービス（通所型サービス・通所リハビリテーション）

問 26 通所サービスをご存知でしたか。利用したことがありますか。

（現在利用している場合）

副問 1 この1週間では、何回くらい利用しましたか。

副問 2 全体的にみて、通所サービスにどの程度満足していますか。

副問 3 何回でも利用できるとしたら、今後、週に何回くらい利用したいですか。

副問 4 1回あたりの利用時間は、どのくらいが適当だと思いますか。

（かつて利用・利用したことはない・知らなかった場合）

副問 5 現在、通所サービスを利用したいと思いますか。

（利用したい・利用を検討したい場合）

副副問 1 何回でも利用できるとしたら、今後、週に何回くらい利用したいですか。

副副問 2 1回あたりの利用時間は、どのくらいが適当だと思いますか。

要支援認定者の通所サービス（通所型サービスやデイケア）の利用率は33.5%（要支援1：30.0%、要支援2：38.1%）で、平成25年（31.8%）、平成28年（33.2%）と同程度であった。

通所サービスを現在利用している人の利用回数は、週に「1回」が63.1%と最多であった。利用者の通所サービスに対する満足度は、「非常に/わりと満足」が87.7%で、平成25年（89.2%）、平成28年（82.4%）と同様に8割台で推移していた。

利用者が希望する回数は、週に「2回」が53.9%と最多であった。

利用者が考える「適当な利用時間」は、「3時間未満」が47.4%と最多で、次いで「3～5時間」が27.2%であった。

通所サービスを利用していない人のうち、「すぐにでも利用したい」「利用を検討したい」という人は10.1%（要支援1：8.7%、要支援2：12.4%）であった。通所サービスを利用していないが、利用を希望・検討している人では、週に「1回」、1回あたり「3時間未満」の希望者が多かった。

通所サービスの利用状況

	人数	現在利用している	かつて利用したことがある	知っていたが、利用したことはない	知らなかった	無回答
総数	297	33.5%	5.9%	55.3%	4.0%	1.3%
要支援1	169	30.0%	4.7%	60.0%	4.0%	1.3%
要支援2	128	38.1%	7.5%	49.0%	4.1%	1.4%

副問 1～4 へ

副問 5 へ

（現在利用していると回答した場合）この1週間の通所サービスの利用回数（回/週）

	人数	1回	2回
総数	99	63.1%	36.9%
要支援1	51	97.8%	2.2%
要支援2	48	26.8%	73.2%

(現在利用していると回答した場合) 通所サービスの満足度

	人数	非常に満足	わりと満足	あまり満足 していない	全然満足 していない	無回答
総数	99	40.8%	46.9%	8.6%	1.7%	2.0%
要支援1	51	42.2%	42.2%	13.3%	0.0%	2.2%
要支援2	48	39.3%	51.8%	3.6%	3.6%	1.8%

(現在利用していると回答した場合) 通所サービスの利用希望回数(回/週)

	人数	1回	2回	3回	4回	何回でも
総数	99	35.1%	53.9%	8.4%	0.9%	1.8%
要支援1	51	53.3%	42.2%	4.4%	0.0%	0.0%
要支援2	48	16.1%	66.1%	12.5%	1.8%	3.6%

(現在利用していると回答した場合) 適当と思う1回あたりの通所サービスの利用時間

	人数	3時間未満	3～5時間未満	5～7時間未満	7～9時間未満	無回答
総数	99	47.4%	27.2%	16.2%	8.0%	1.1%
要支援1	51	46.7%	31.1%	11.1%	8.9%	2.2%
要支援2	48	48.2%	23.2%	21.4%	7.1%	0.0%

(かつて利用・利用したことはない・知らなかったと回答した場合) 通所サービスの利用希望

	人数	すぐにでも 利用したい	利用を検討 したい	なるべく 利用したく ない	利用は まったく 考えて いない	現在は 利用する 必要がない	無回答
総数	194	3.5%	6.6%	18.3%	16.5%	53.9%	1.2%
要支援1	117	2.9%	5.8%	18.5%	18.5%	52.4%	1.9%
要支援2	77	4.5%	7.9%	18.0%	13.5%	56.2%	0.0%

(利用したい・検討したい場合) 通所サービスの利用希望回数(回/週)

	人数	1回	2回	何回でも	わからない
総数	20	56.8%	31.7%	5.7%	5.7%
要支援1	10	33.3%	44.4%	11.1%	11.1%
要支援2	10	81.8%	18.2%	0.0%	0.0%

(利用したい・検討したい場合) 適当と思う1回あたりの通所サービスの利用時間

	人数	3時間未満	3～5時間未満	5～7時間未満	7～9時間未満	無回答
総数	20	69.6%	0.0%	14.6%	0.0%	15.9%
要支援1	10	66.6%	0.0%	11.1%	0.0%	22.2%
要支援2	10	72.8%	0.0%	18.2%	0.0%	9.1%

(6) 訪問看護サービス（介護予防訪問看護）

問 27 訪問看護サービスをご存知でしたか。利用したことがありますか。

（現在利用している場合）

副問 1 この1カ月間では、何回くらい利用しましたか。

副問 2 全体的にみて、訪問看護サービスにどの程度満足していますか。

副問 3 何回でも利用できるとしたら、今後、月に何回くらい利用したいですか。

（かつて利用・利用したことはない・知らなかった場合）

副問 4 現在、訪問看護サービスを利用したいと思いますか。

（利用したい・利用を検討したい場合）

副副問 何回でも利用できるとしたら、今後、月に何回くらい利用したいですか。

要支援認定者の訪問看護サービスの利用率は、4.6%（要支援1:4.0%、要支援2:5.4%）であった。平成25年は1.5%、平成28年は4.9%で、1～5%で推移していた。

訪問看護サービスを現在利用している人の利用回数は、月に「4回」が45.6%と最多であった。

利用者の訪問看護サービスに対する満足度は、「非常に/わりと満足」が79.1%で、平成25年（100.0%）よりは低下したが、平成28年（80.0%）と同程度であった。

利用希望回数は、月に「2回」と「4回」を希望する人が多かった。

訪問看護サービスを利用していない人のうち、「すぐにでも利用したい」「利用を検討したい」という人は5.7%（要支援1:3.5%、要支援2:8.7%）であった。

訪問看護サービスを利用していないが、利用を希望・検討している人では、月に「4回」を希望する人が多かった。

訪問看護の利用状況

	人数	現在利用している	かつて利用したことがある	知っていたが、利用したことはない	知らなかった	無回答
総数	297	4.6%	3.2%	72.3%	18.5%	1.3%
要支援1	169	4.0%	4.0%	72.0%	18.7%	1.3%
要支援2	128	5.4%	2.0%	72.8%	18.4%	1.4%

副問1～3へ

副問4へ

（現在利用していると回答した場合）この1カ月の訪問看護の利用回数（回/月）

	人数	0回	1回	2回	3回	4回
総数	14	6.3%	14.6%	27.2%	6.3%	45.6%
要支援1	7	0.0%	16.7%	16.7%	0.0%	66.7%
要支援2	7	12.5%	12.5%	37.5%	12.5%	25.0%

(現在利用していると回答した場合) 訪問看護の満足度

	人数	非常に満足	わりと満足	あまり満足してない	全然満足してない	無回答
総数	14	20.9%	58.2%	14.6%	0.0%	6.3%
要支援1	7	16.6%	66.8%	16.6%	0.0%	0.0%
要支援2	7	25.0%	50.0%	12.5%	0.0%	12.5%

(現在利用していると回答した場合) 訪問看護の利用希望回数(回/月)

	人数	0回	1回	2回	3回	4回	何回でも
総数	14	6.3%	6.3%	35.5%	6.3%	37.4%	8.2%
要支援1	7	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	50.0%	16.7%
要支援2	7	12.5%	12.5%	37.5%	12.5%	25.0%	0.0%

(かつて利用・利用したことはない・知らなかったと回答した場合) 訪問看護の利用希望

	人数	すぐにでも利用したい	利用を検討したい	なるべく利用したくない	利用はまったく考えていない	現在は利用する必要がない	無回答
総数	279	0.3%	5.4%	8.5%	11.8%	73.2%	0.8%
要支援1	160	0.0%	3.5%	7.7%	11.3%	76.1%	1.4%
要支援2	119	0.7%	8.0%	9.5%	12.4%	69.3%	0.0%

(利用したい・検討したい場合) 訪問看護の利用希望回数(回/月)

	人数	1回	2回	4回	8回	何回でも	わからない
総数	16	16.2%	23.2%	37.3%	5.4%	7.0%	10.8%
要支援1	6	0.0%	20.0%	60.0%	0.0%	20.0%	0.0%
要支援2	10	25.0%	25.0%	25.0%	8.3%	0.0%	16.7%

(7) その他の介護・医療・福祉サービス・支援

問 28 次のサービスや支援をご存じですか。利用したことがありますか。
今後利用したいと思いますか。

((1)～(8)について、利用と利用希望の有無を1つずつ質問)

- (1) 訪問リハビリテーション
- (2) 認知症高齢者グループホーム
- (3) 小規模多機能型居宅介護
- (4) 福祉用具の貸し出し、または購入費用の支給
- (5) 住宅改修費の支給
- (6) 訪問診療、往診
- (7) 権利擁護事業
- (8) 配食サービス

その他のサービスや支援のうち、利用率が高いのは「福祉用具の貸し出し・購入費用の支給」34.5%で、次いで「住宅改修費の支給」26.3%であった。

利用希望者の割合が高いのも、「福祉用具の貸し出し・購入費用の支給」41.0%で、次いで「住宅改修費の支給」27.9%であった。それ以外で利用希望者が10%を超えていたのは、「訪問リハビリテーション」14.8%、「訪問診療、往診」11.5%、「配食サービス」18.0%であった。

いずれのサービス等に関しても、利用者と利用希望者の割合に大きな乖離はなかった。地域密着型サービスについては、利用者、利用希望者ともに総じて割合が低かった。

平成25年・平成28年の調査と比べて利用率に変化があったのは、「訪問リハビリテーション」で、平成25年は5.7%、平成28年は7.7%、今回は8.5%で、微増傾向であった。

「福祉用具の貸与・購入費用支給」の利用率も、平成25年は25.9%、平成28年は28.9%、今回は34.5%で、増加していた。「訪問診療、往診」の利用率は、平成25年は3.7%、平成28年は4.2%、今回は5.4%で、微増傾向であった。その他のものについては、経年的な変化はなかった。

利用希望者の割合は、「福祉用具の貸与・購入費用支給」について平成25年は34.3%、平成28年は30.3%、今回は41.0%で、増加していた。その他のものについては、経年的な変化はなかった。

その他の介護・医療・福祉サービス・支援の利用者の割合

		人数	訪問リハビリテーション	認知症対応型共同生活介護	小規模多機能型居宅介護	福祉用具の貸与・購入費用の支給	住宅改修費の支給	訪問診療・往診	権利擁護事業	配食サービス
利用した	総数	297	8.5%	0.4%	0.4%	34.5%	26.3%	5.4%	1.6%	13.7%
	要支援1	169	4.7%	0.7%	0.7%	26.7%	20.0%	3.3%	1.3%	10.7%
	要支援2	128	13.6%	0.0%	0.0%	44.9%	34.7%	8.2%	2.0%	17.7%
知っていたが利用はない	総数	297	59.1%	51.1%	38.2%	51.6%	56.2%	72.7%	52.3%	70.8%
	要支援1	169	60.0%	50.7%	37.3%	56.7%	58.0%	70.0%	50.7%	73.3%
	要支援2	128	57.8%	51.7%	39.5%	44.9%	53.7%	76.2%	54.4%	67.3%
知らなかった	総数	297	31.1%	47.2%	60.0%	12.5%	15.9%	20.6%	44.7%	14.6%
	要支援1	169	34.0%	47.3%	60.7%	15.3%	20.7%	25.3%	46.7%	15.3%
	要支援2	128	27.2%	46.9%	59.2%	8.8%	9.5%	14.3%	42.2%	13.6%
無回答	総数	297	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.6%	1.3%	1.3%	1.0%
	要支援1	169	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	0.7%
	要支援2	128	1.4%	1.4%	1.4%	1.4%	2.0%	1.4%	1.4%	1.4%

その他の介護・医療・福祉サービス・支援の利用希望者の割合

		人数	訪問リハビリテーション	認知症対応型共同生活介護	小規模多機能型居宅介護	福祉用具の貸与・購入費用の支給	住宅改修費の支給	訪問診療・往診	権利擁護事業	配食サービス
利用したい	総数	297	14.8%	1.6%	1.3%	41.0%	27.9%	11.5%	1.7%	18.0%
	要支援1	169	10.0%	1.3%	1.3%	36.0%	23.3%	9.3%	2.0%	19.3%
	要支援2	128	21.1%	2.0%	1.4%	47.6%	34.0%	14.3%	1.4%	16.3%
利用しなくてよい	総数	297	76.8%	87.9%	87.3%	49.0%	61.5%	78.0%	90.8%	73.6%
	要支援1	169	81.3%	88.0%	86.0%	52.7%	63.3%	79.3%	90.0%	72.7%
	要支援2	128	70.8%	87.8%	89.1%	44.2%	59.2%	76.2%	91.8%	74.8%
不明無回答	総数	297	8.4%	10.5%	11.3%	10.0%	10.5%	10.6%	7.5%	8.4%
	要支援1	169	8.7%	10.7%	12.7%	11.3%	13.3%	11.3%	8.0%	8.0%
	要支援2	128	8.2%	10.2%	9.5%	8.2%	6.8%	9.5%	6.8%	8.8%

(8) 介護予防・日常生活支援総合事業

問 29	三鷹市では、身体介護を必要とせず、家事援助のみを必要とする方に対して、利用料をこれまでより安くした訪問型サービスを提供しています。このような「三鷹市独自基準の訪問型サービス」を利用したいと思いますか。
問 30	三鷹市が指定する研修を修了した「みたか ふれあい支援員」による家事援助サービスは、介護福祉士などの資格を持った人による家事援助サービスと比べて、利用料が安く、利用した回数だけの支払いで済みます。このような「ふれあい支援員」による家事援助サービスを利用したいと思いますか。
問 31	通所型サービスについても、利用時間を短くしたり、職員の配置基準を緩和することで、利用料を安くし、利用した回数だけの支払いで済むようにしました。このような「三鷹市独自基準の通所型サービス」を利用したいと思いますか。

「市独自基準の訪問型サービス」については、「現在利用」3.0%、「すぐにでも利用したい」5.3%、「利用を検討したい」17.7%で、利用中または利用を希望・検討している人は、26.0%であった（要支援1：26.7%、要支援2：25.1%）。この割合は、平成28年（27.0%）と同程度であった。

「ふれあい支援員」については、「現在利用」1.7%、「すぐにでも利用したい」4.6%、「利用を検討したい」17.3%で、利用中または利用を希望・検討している人は、23.6%であった（要支援1：24.0%、要支援2：23.1%）。この割合は、平成28年（27.8%）と比べて若干低下していた。

「市独自基準の通所型サービス」については、「現在利用」3.9%、「すぐにでも利用したい」4.0%、「利用を検討したい」14.0%で、利用中または利用を希望・検討している人は、21.9%であった（要支援1：22.6%、要支援2：21.1%）。この割合は、平成28年（23.7%）と同程度であった。

上記のサービスの利用希望について、要支援1と要支援2で大きな違いはなかった。

三鷹市独自基準の訪問型サービスの利用希望

	人数	現在利用 している	すぐにでも 利用したい	利用を検討 したい	なるべく 利用したく ない	利用はまっ たく考えて いない	現在は利用 する必要が ない	無回答
総数	297	3.0%	5.3%	17.7%	9.5%	12.2%	49.2%	3.1%
要支援1	169	2.7%	4.7%	19.3%	8.0%	12.7%	49.3%	3.3%
要支援2	128	3.4%	6.1%	15.6%	11.6%	11.6%	49.0%	2.7%

ふれあい支援員による家事援助サービスの利用希望

	人数	現在利用 している	すぐにでも 利用したい	利用を検討 したい	なるべく 利用したく ない	利用はまっ たく考えて いない	現在は利用 する必要が ない	無回答
総数	297	1.7%	4.6%	17.3%	10.9%	11.5%	51.7%	2.3%
要支援1	169	2.0%	4.0%	18.0%	9.3%	12.0%	52.7%	2.0%
要支援2	128	1.4%	5.4%	16.3%	12.9%	10.9%	50.3%	2.7%

三鷹市独自基準の通所型サービスの利用希望

	人数	現在利用 している	すぐにでも 利用したい	利用を検討 したい	なるべく 利用したく ない	利用はまっ たく考えて いない	現在は利用 する必要が ない	無回答
総数	297	3.9%	4.0%	14.0%	11.2%	11.7%	51.8%	3.4%
要支援1	169	3.3%	4.0%	15.3%	9.3%	13.3%	51.4%	3.3%
要支援2	128	4.8%	4.1%	12.2%	13.6%	9.5%	52.4%	3.4%

(9) 介護保険サービス利用料

問 32 介護保険のサービスをお使いの方はサービス利用料をお支払いですが、現在、自己負担の割合は何割ですか。

問 33 介護保険サービスの利用料は、お宅の家計にとってどの程度負担ですか。

サービス利用料の自己負担割合は、「1割負担」が81.1%、「2割負担」が9.1%、「3割負担」が9.8%であった。

サービス利用料の自己負担が家計にとってどの程度負担になっているかについては、「非常に負担」が7.3%、「多少負担」が22.4%で、両者を合計するとサービス利用料を負担に感じている人は29.7%であった。

「非常に/多少負担」という人の割合は、平成25年は31.0%、平成28年は31.2%であったので、概ね3割程度で推移していた。

認定状況別では、「非常に/多少負担」と答えた人の割合に大きな差はなかった。

自己負担割合別では、負担割合が高くなるほど「非常に/多少負担」と答えた人の割合も高くなり、3割負担の人では45.9%が「非常に/多少負担」と答えていた。

介護保険サービス利用料の自己負担割合

	人数	1割	2割	3割
総数	297	81.1%	9.1%	9.8%
要支援1	169	80.6%	10.0%	9.4%
要支援2	128	81.9%	7.9%	10.2%

介護保険サービス利用料の負担感

	人数	非常に負担	多少負担	あまり負担ではない	まったく負担ではない	無回答
総数	238	7.3%	22.4%	45.4%	20.8%	4.2%
要支援1	126	8.7%	22.2%	37.3%	27.0%	4.8%
要支援2	112	5.4%	22.3%	54.5%	14.3%	3.6%
1割負担	190	5.3%	21.6%	47.4%	22.1%	3.7%
2割負担	24	13.0%	21.7%	39.1%	26.1%	0.0%
3割負担	24	16.7%	29.2%	37.5%	4.2%	12.5%

注)「サービスを利用していない」や「サービス利用料を払っていない」と回答した人は除外した。

(10) 経済的な理由によるサービスの利用抑制

問 34 経済的な理由で、次の介護保険サービスを利用できなかったり、時間や回数を制限せざるを得ないということがありましたか。

((1)～(4)について1つずつ質問)

- (1) ショートステイサービス
- (2) ホームヘルプサービス
- (3) 通所サービス
- (4) 訪問看護サービス

経済的な理由で、介護保険サービスを「利用できなかった」または「時間や回数を制限した」ことのある人は、「ショートステイ」2.0%、「ホームヘルプ」5.4%、「通所サービス」3.8%、「訪問看護」2.7%であった。

認定状況別にみると、「利用できなかった」または「時間や回数を制限した」割合は、要支援1と要支援2で大きな違いはないものの、「通所サービス」については、要支援1の方が要支援2より該当者の割合が若干高かった（要支援1：6.1%、要支援2：1.3%）。

経済的な理由によるサービスの利用抑制

		人数	利用できなかった	時間や回数を制限した	経済的な理由による影響はない	わからない無回答
ショートステイ	総数	101	2.0%	0.0%	80.2%	17.8%
	要支援1	53	3.8%	0.0%	71.7%	24.5%
	要支援2	48	0.0%	0.0%	89.6%	10.4%
ホームヘルプ	総数	131	3.1%	2.3%	79.4%	15.2%
	要支援1	64	3.1%	3.1%	71.9%	21.9%
	要支援2	67	3.0%	1.5%	86.6%	8.9%
通所サービス	総数	159	1.9%	1.9%	84.9%	11.3%
	要支援1	82	2.4%	3.7%	78.0%	15.9%
	要支援2	77	1.3%	0.0%	92.2%	6.5%
訪問看護	総数	110	1.8%	0.9%	77.3%	20.0%
	要支援1	58	1.7%	0.0%	74.1%	24.2%
	要支援2	52	1.9%	1.9%	80.8%	15.4%

注) 各サービスについて「サービスを利用する必要がない」と回答した人は除外した。

(11) 有料老人ホーム等への入居希望

問 35 現時点で、施設等への入所や入居を検討されていますか。

施設等への「入所・入居は検討していない」が 86.3%と最も割合が高く、「入所・入居を検討している」が 8.1%、「すでに申し込みをしている」1.4%、「すでに入所・入居している」2.1%であった。

認定状況別では、要支援1と要支援2で大きな違いはなかった。

質問形式が異なるため、厳密な比較はできないが、平成28年の調査でも、今後の療養場所として「自宅」を希望する人が 89.5%であったので、自宅での生活を希望する人の割合は、概ね9割程度で推移していた。

有料老人ホーム等への入所・入居希望

	人数	入所・入居は 検討して いない	入所・入居を 検討して いる	すでに 入所・入居の 申し込みを している	すでに 入所・入居 している	無回答
総数	297	86.3%	8.1%	1.4%	2.1%	2.0%
要支援1	169	87.3%	6.0%	2.0%	2.7%	2.0%
要支援2	128	85.0%	10.9%	0.7%	1.4%	2.0%

(12) 災害時の避難

問 36 地震や水害などの災害時の避難について、うかがいます。

- (1) 災害時に自力で避難することが困難な方を名簿に登録して、いざという時に避難の支援や安否確認を行う「避難行動 要支援者名簿」というものがあります。
「避難行動 要支援者名簿」に登録していますか。または登録したいですか。
- (2) 災害時に利用できる一般の避難所や福祉避難所（二次避難所）の場所を知っていますか。
- (3) 災害時の避難方法や避難経路、日頃の備えなどについて、防災や医療・福祉の専門職から助言や指導を受けたことがありますか。または助言や指導を受けたいですか。
- (4) 災害時の避難を手助けしてくれる人はいますか。それは誰ですか。（複数回答）

「避難行動 要支援者名簿」に「登録している」人は 16.8%、「今は登録していないが、登録したい」という人は 30.5%であった。認定状況別にみると、要支援 1の方が要支援 2よりも登録を希望する割合が高かった。

一般の避難所については、「一般の避難所の場所を知っている」「両方の場所を知っている」を合わせると 57.2%が知っていたが、福祉避難所については「福祉避難所の場所を知っている」「両方の場所を知っている」を合わせても 16.7%であった。「どちらも知らない」という人も 36.3%いた。要支援 1と要支援 2で大きな違いはなかった。

災害時の避難方法や避難経路、日頃の備えなどについて、防災や医療・福祉の専門職から助言や指導を「受けたことがある」人は 9.3%と少なく、「受けたことはないが、受けたい」という人は 30.6%であった。要支援 1と要支援 2で大きな違いはなかった。

災害時の避難を手助けしてくれる人は、「家族」が 64.7%と最多で、次いで「近隣の人、友人」が 11.0%であった。「誰もいない」という人も 26.1%いた。認定状況別にみると、要支援 2よりも要支援 1の方が「誰もいない」と答えた人の割合が高かった。

避難行動 要支援者名簿への登録状況

	人数	登録している	登録していないが、登録したい	今後も登録しなくてよい	わからない 無回答
総数	297	16.8%	30.5%	27.1%	25.6%
要支援 1	169	16.7%	36.0%	24.0%	23.3%
要支援 2	128	17.0%	23.1%	31.3%	28.6%

一般の避難所や福祉避難所（二次避難所）の場所

	人数	両方の場所を知っている	一般の避難所を知っている	福祉避難所を知っている	どちらも知らない	無回答
総数	297	11.6%	45.6%	5.1%	36.3%	1.3%
要支援 1	169	10.7%	44.7%	5.3%	38.0%	1.3%
要支援 2	128	12.9%	46.9%	4.8%	34.0%	1.4%

災害時の避難方法等について専門職からの助言や指導

	人数	受けたことがある	受けたことはないが、受けたい	受けたことはないし、今後も受けなくてよい	無回答
総数	297	9.3%	30.6%	57.5%	2.5%
要支援 1	169	10.7%	30.7%	57.3%	1.3%
要支援 2	128	7.5%	30.6%	57.8%	4.1%

災害時の避難を手助けしてくれる人（複数回答）

	人数	家族、親族	近隣、友人	施設の職員	その他	誰もいない
総数	297	64.7%	11.0%	2.0%	0.3%	26.1%
要支援 1	169	65.3%	8.0%	2.0%	0.0%	29.3%
要支援 2	128	63.9%	15.0%	2.0%	0.7%	21.8%

(13) 障がい福祉サービス

問 37 65 歳になるまでに、障がい福祉サービスを利用したことがありましたか。

障がい福祉サービスとは、三鷹市の障がい者支援課に申請して利用する介護や就労支援などのサービスです。

(利用したことがあると回答した場合)

副問 65 歳以降、サービス利用に関して、次のような問題がありましたか。

((1)～(5)について 1 つずつ質問)

- (1) 使いたいサービスや施設が利用できなくなった
- (2) 利用回数や利用時間を減らさざるを得なくなった
- (3) 障がい特性を理解した対応が受けられなくなった
- (4) 経済的な負担が増えた
- (5) 家族の負担が増えた

65 歳までに障がい福祉サービスを利用していた人は、3.0%であった。

65 歳以降、サービス利用に関して経験した問題としては、「経済的な負担の増加」が 35.3%と最多で、次いで「使いたいサービスや施設が利用できなくなった」「障がい特性を理解した対応が受けられなくなった」がどちらも 25.5%であった。「家族の負担が増えた」という人も 22.6%いた。

障がい福祉サービスの利用

人数	あった	なかった	わからない 無回答
297	3.0%	86.7%	10.3%

(障がい福祉サービスを利用していた場合) 65 歳以降のサービス利用に関する問題

	人数	あった	なかった	わからない 無回答
使いたいサービスや施設が利用 できなくなった	9	25.5%	64.7%	9.8%
利用回数や利用時間を減らさ ざるを得なくなった	9	12.8%	87.2%	0.0%
障がい特性を理解した対応が 受けられなくなった	9	25.5%	74.5%	0.0%
経済的な負担が増えた	9	35.3%	64.7%	0.0%
家族の負担が増えた	9	22.6%	64.7%	12.8%

5 介護者の状況

(1) 主な介護者

- 問 38 ○○さん（要支援認定者）の「お世話を主にしている人」はどなたですか。
（お世話を主にしている家族・親族がいる場合）
- 問 39 「お世話を主にしている人」の性別を教えてください。
- 問 40 「お世話を主にしている人」の年齢はおいくつですか。
- 問 41 「お世話を主にしている人」は、○○さんと一緒に住んでいますか。離れて住んでいる場合は、ふだん使っている交通手段でどのくらいの時間がかかりますか。
- 問 42 この1ヵ月間に「お世話を主にしている人」は、○○さんのお世話をどの程度なさいましたか。
- 問 43 「お世話を主にしている人」は、○○さんにどのようなお世話をしていますか。
（複数回答）

主に介護を担当している人（主介護者）は、「配偶者」23.4%、「娘（配偶者あり/なし）」21.0%、「息子（配偶者あり/なし）」12.5%であった。「主介護者がいない」人は31.0%（要支援1：35.3%、要支援2：25.2%）で、平成25年は30.6%、平成28年は36.3%であることから、概ね3割程度で推移していた。

主介護者の性別は、「女性」が64.9%を占めていた。主介護者の年齢は、「65歳以上」が50.6%であった。主介護者が「65歳以上」の割合は、平成25年は48.3%、平成28年は37.9%であったので、年によって変動が大きいものの、4～5割で推移していた。

主介護者が「同居」している人が64.6%で、平成25年（74.6%）より10ポイント減少していたが、平成28年（63.0%）とは同程度であった。

主介護者の介護頻度は、「毎日かかりきり」が9.8%であった。「毎日かかりきり」の割合は、平成25年は11.3%、平成28年は7.4%で、概ね10%前後で推移していた。「かかりきりではないが、ほぼ毎日」は40.5%で、平成25年（47.5%）より減少し、平成28年（41.8%）と同程度であった。

介護内容は、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が73.7%と多く、次いで「食事の準備」52.9%、「外出の付き添い、送迎」46.6%、「金銭管理」44.4%であった。

主な介護者（主介護者）

	人数	配偶者	息子 配偶者 あり	息子 配偶者 なし	娘 配偶者 あり	娘 配偶者 なし	嫁	兄弟姉妹
総数	297	23.4%	6.9%	5.6%	15.3%	5.7%	3.3%	1.9%
要支援1	169	22.0%	8.0%	6.7%	12.0%	5.3%	2.7%	1.3%
要支援2	128	25.2%	5.4%	4.1%	19.7%	6.1%	4.1%	2.7%
	人数	その他の 親族	ホーム ヘルパー	施設職員	近隣、知人 ボランティア	主介護者 はいない	無回答	
総数	297	1.4%	2.7%	1.3%	0.6%	31.0%	1.0%	
要支援1	169	2.0%	2.7%	1.3%	0.0%	35.3%	0.7%	
要支援2	128	0.7%	2.7%	1.4%	1.4%	25.2%	1.4%	

主介護者の性別

	人数	男性	女性
総数	188	35.1%	64.9%
要支援1	101	37.8%	62.2%
要支援2	87	32.0%	68.0%

注) 主介護者がいない人や親族以外が主介護者である人は除外した。

主介護者の年齢階級

	人数	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上
総数	188	1.4%	10.0%	29.4%	8.6%	9.7%	13.3%	8.3%	19.3%
要支援1	101	0.0%	13.3%	28.9%	10.0%	7.8%	14.4%	7.8%	17.8%
要支援2	87	3.0%	6.0%	30.0%	7.0%	12.0%	12.0%	9.0%	21.0%

注) 主介護者がいない人や親族以外が主介護者である人は除外した。

主介護者と要支援認定者の同別居

	人数	同居	片道15分未満	片道15分～1時間未満	片道1～2時間未満	片道2時間以上
総数	188	64.6%	16.2%	12.0%	5.9%	1.4%
要支援1	101	63.3%	18.9%	11.1%	6.7%	0.0%
要支援2	87	66.0%	13.0%	13.0%	5.0%	3.0%

注) 主介護者がいない人や親族以外が主介護者である人は除外した。

主介護者の介護の頻度

	人数	毎日 かかりきり	かかりきり ではないが毎日	週に3～5日 くらい	週に1～2日 くらい	それより 少ない	お世話は していない
総数	188	9.8%	40.5%	5.2%	19.7%	14.0%	10.9%
要支援1	101	12.2%	36.7%	4.4%	21.1%	12.2%	13.3%
要支援2	87	7.0%	45.0%	6.0%	18.0%	16.0%	8.0%

注) 主介護者がいない人や親族以外が主介護者である人は除外した。

主介護者の介護内容（複数回答）

	人数	日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助	入浴洗身	身だしなみ	衣服の着脱	屋内の移乗移動
総数	188	0.5%	1.4%	4.1%	10.5%	5.8%	6.1%	4.1%
要支援1	101	0.0%	0.0%	3.3%	10.0%	5.6%	4.4%	6.7%
要支援2	87	1.0%	3.0%	5.0%	11.0%	6.0%	8.0%	1.0%
	人数	外出の付き添い・送迎	服薬	認知症状への対応	医療面での対応	食事の準備	その他の家事	金銭管理
総数	188	46.6%	10.5%	2.7%	3.5%	52.9%	73.7%	44.4%
要支援1	101	48.9%	10.0%	3.3%	2.2%	51.1%	70.0%	42.2%
要支援2	87	44.0%	11.0%	2.0%	5.0%	55.0%	78.0%	47.0%

注) 主介護者がいない人や親族以外が主介護者である人は除外した。

(2) 主な介護者の就労状況

問 44 お世話を主にしている人は、現在、収入のある仕事をしていますか。複数の仕事をしている場合は、主な仕事についてお答えください。

(仕事をしている場合)

副問 1 お世話を主にしている人は、介護をするにあたって、何か働き方の調整をしていますか。(複数回答)

副問 2 お世話を主にしている人は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。

主介護者の就労状況は、「常勤」が 26.4%で、平成 25 年 (22.8%) より増加していたが、平成 28 年 (27.0%) とは同程度であった。「パート (または週 30 時間未満の勤務)」は 14.7%で、これも平成 25 年 (9.3%) より増加していたが、平成 28 年 (16.4%) とは同程度であった。「仕事をしていない」は 50.1%であった。平成 25 年は 57.5%、平成 28 年は 47.6%で、年によって変動があるものの、概ね 5 割前後で推移していた。

仕事をしている主介護者の 75.3%は、介護をするにあたって働き方の調整は特に行っていなかった。働き方の調整をしている人では、「労働時間を調整」が 12.8%と多かった。要支援 1 と要支援 2 で大きな違いはなかった。

仕事と介護の両立については、「問題なく続けていける」が 72.3%と最多であった。要支援 2の方が要支援 1 より、「問題なく続けていける」と答えた人の割合が低かった。

主介護者の就労状況

	人数	常勤 週 30 時間 以上	パート 週 30 時間 未満	自営業 毎日かなり の時間	自営業 毎日わずか な時間	自営業 週に 1~2 日 程度	収入のある 仕事はして いない
総数	188	26.4%	14.7%	6.0%	2.3%	0.5%	50.1%
要支援 1	101	26.7%	11.1%	7.8%	3.3%	0.0%	51.1%
要支援 2	87	26.0%	19.0%	4.0%	1.0%	1.0%	49.0%

注) 主介護者がいない人や親族以外が主介護者である人は除外した。

→ (仕事をしている場合) 主介護者の「働き方の調整」(複数回答)

	人数	労働時間を 調整	休暇を取り ながら	在宅勤務を 利用	その他	働き方の調 整は特に行 っていない	わからない
総数	94	12.8%	3.1%	0.0%	1.9%	75.3%	7.0%
要支援 1	50	13.6%	2.3%	0.0%	0.0%	79.5%	4.5%
要支援 2	44	11.8%	3.9%	0.0%	3.9%	70.6%	9.8%

→ (仕事をしている場合) 主介護者の「仕事と介護の両立」

	人数	問題なく 続けていける	問題はあるが 何とか続けて いける	続けていくのは やや難しい	続けていくのは かなり難しい	わからない 無回答
総数	94	72.3%	21.0%	1.2%	0.0%	5.5%
要支援 1	50	77.3%	20.5%	2.3%	0.0%	0.0%
要支援 2	44	66.7%	21.6%	0.0%	0.0%	11.8%

(3) 副介護者

問 45 「主にしている人」以外で、〇〇さん（要支援認定者）のお世話や家事を最もよく手伝っている方を、一人だけあげてください。

(手伝っている方がいる場合)

問 46 お世話を「最もよく手伝っている人」の性別を教えてください。

問 47 「最もよく手伝っている人」の年齢はおいくつですか。

問 48 「最もよく手伝っている人」は、〇〇さんと一緒に住んでいますか。離れて住んでいる場合は、ふだん使っている交通手段でどのくらいの時間がかかりますか。

問 49 この1ヵ月間に「最もよく手伝っている人」は、〇〇さんのお世話をどの程度なさいましたか。

問 50 「最もよく手伝っている人」は、現在、収入のある仕事をしていますか。複数の仕事をしている場合は、主な仕事についてお答えください。

介護を手伝ってくれる「副介護者がいない（主介護者がいない場合も含む）」が 67.6%であった。「主介護者も副介護者もない人」は、平成 25 年は 59.2%、平成 28 年は 73.2%で、年によって変動があるものの、6～7 割程度で推移していた。

副介護者の続柄は、「息子（配偶者あり/なし）」が 11.9%と最多で、次いで「娘（配偶者あり/なし）」7.7%であった。

副介護者は、「男性」が 51.8%と女性より多かった。平成 25 年・平成 28 年ともに女性が 59.2%と 51.6%であったので、今回初めて女性より男性の副介護者が多くなっていた。

副介護者の年齢は、「64 歳以下」が 76.5%、「65 歳以上」が 23.4%であった。

副介護者の居住地は「同居」が 32.6%であった。同居の割合は、平成 25 年は 42.7%、平成 28 年は 37.5%であったので、年々減少している。

副介護者の介護頻度は、「毎日かかりきり」という人はおらず、「かかりきりではないが、ほぼ毎日」が 10.6%であった。「かかりきりではないが、ほぼ毎日」の割合は、平成 25 年、平成 28 年ともに 16.7%で、今回は減少していた。

副介護者の就労状況は、「常勤」が 43.9%で、平成 25 年（38.2%）より増加しており、平成 28 年（43.9%）と同程度であった。「パート」は 25.8%で、平成 25 年・平成 28 年（ともに 16.7%）より増加していた。仕事をしていない副介護者は 23.0%で、平成 25 年（33.3%）や平成 28 年（34.8%）より 10 ポイント程度減少していた。

副介護者の続柄

	人数	配偶者	息子 配偶者 あり	息子 配偶者 なし	娘 配偶者 あり	娘 配偶者 なし	息子の妻 (嫁)	娘の夫 (婿)
総数	297	0.3%	7.8%	4.1%	5.7%	2.0%	3.7%	1.0%
要支援 1	169	0.6%	6.0%	4.2%	4.2%	0.6%	3.0%	0.6%
要支援 2	128	0.0%	10.2%	3.9%	7.8%	3.9%	4.7%	1.6%
	人数	孫	兄弟姉妹	その他の 親族	ホーム ヘルパー	施設職員	近隣、知人 ボランティア	副介護者 はいない
総数	297	1.4%	1.0%	1.0%	2.4%	1.4%	0.7%	67.6%
要支援 1	169	1.8%	0.0%	1.2%	1.2%	1.8%	0.0%	74.9%
要支援 2	128	0.8%	2.3%	0.8%	3.9%	0.8%	1.6%	57.8%

注) 副介護者がいない人の中には、「主介護者はいない」と回答した人も含む。

副介護者の性別

	人数	男性	女性
総数	83	51.8%	48.2%
要支援1	37	57.6%	42.4%
要支援2	46	47.2%	52.8%

注) 主介護者・副介護者がいない人や親族以外が副介護者である人は除外した。

副介護者の年齢階級

	人数	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上
総数	83	1.0%	1.4%	5.1%	15.1%	43.2%	10.7%	14.5%	5.5%	1.0%	2.4%
要支援1	37	0.0%	3.0%	9.1%	15.2%	54.5%	3.0%	9.1%	3.0%	0.0%	3.0%
要支援2	46	1.9%	0.0%	1.9%	15.1%	34.0%	17.0%	18.9%	7.5%	1.9%	1.9%

注) 主介護者・副介護者がいない人や親族以外が副介護者である人は除外した。

副介護者と要支援認定者の同別居

	人数	同居	片道15分未満	片道15分～1時間未満	片道1～2時間未満	片道2時間以上
総数	83	32.6%	31.9%	25.8%	7.6%	2.1%
要支援1	37	33.3%	36.4%	27.3%	3.0%	0.0%
要支援2	46	32.1%	28.3%	24.5%	11.3%	3.8%

注) 主介護者・副介護者がいない人や親族以外が副介護者である人は除外した。

副介護者の介護程度

	人数	毎日 かかりきり	かかりきり ではないが毎日	週に3～5日 くらい	週に1～2日 くらい	それより 少ない	お世話は していない
総数	83	0.0%	10.6%	1.4%	32.3%	43.3%	12.4%
要支援1	37	0.0%	12.1%	3.0%	30.3%	45.5%	9.1%
要支援2	46	0.0%	9.4%	0.0%	34.0%	41.5%	15.1%

注) 主介護者・副介護者がいない人や親族以外が副介護者である人は除外した。

副介護者の就労状況

	人数	常勤 週30時間以上	パート 週30時間未満	自営業 毎日かなりの時間	自営業 毎日わずかな時間	自営業 週に1～2日程度	収入のある 仕事はしていない
総数	83	43.9%	25.8%	5.2%	1.0%	23.0%	1.0%
要支援1	37	51.5%	27.3%	0.0%	0.0%	21.2%	0.0%
要支援2	46	37.7%	24.5%	9.4%	1.9%	24.5%	1.9%

注) 主介護者・副介護者がいない人や親族以外が副介護者である人は除外した。

(4) 副副介護者

問 51 「主にしている人」と「最もよく手伝っている人」以外に、日常的に〇〇さん（要支援認定者）のお世話や家事を手伝っている人がいますか。

（手伝っている方がいる場合）

副問 その方はどなたですか。〇〇さんからみた続柄でお答えください。（複数回答）

副介護者以外にも介護を手伝ってくれる「副副介護者」については、「副副介護者がいない（主介護者/副介護者がいない場合も含む）」が85.1%であった。「副副介護者がいない（主介護者/副介護者がいない場合も含む）」という人の割合は、平成25年は89.7%、平成28年は90.4%であったので、概ね85～90%で推移していた。

副副介護者として多かったのは、親族では「娘（配偶者あり）」が3.7%、「息子（配偶者あり）」「嫁」「孫」がそれぞれ3.4%であった。親族以外では「ホームヘルパー」が4.4%であった。

副副介護者（複数回答）

	人数	配偶者	息子 配偶者 あり	息子 配偶者 なし	娘 配偶者 あり	娘 配偶者 なし	息子の妻 (嫁)	娘の夫 (婿)
総数	297	0.3%	3.4%	1.7%	3.7%	0.7%	3.4%	2.7%
要支援 1	169	0.6%	4.1%	1.8%	2.9%	0.6%	3.5%	2.9%
要支援 2	128	0.0%	2.3%	1.6%	4.7%	0.8%	3.1%	2.3%
	人数	孫	兄弟姉妹	その他の 親族	ホーム ヘルパー	施設職員	その他	副副介護者 はいない
総数	297	3.4%	1.0%	2.0%	4.4%	1.0%	1.7%	85.1%
要支援 1	169	2.9%	1.2%	2.9%	3.5%	1.2%	1.2%	90.6%
要支援 2	128	3.9%	0.8%	0.8%	5.5%	0.8%	2.4%	78.1%

注）副副介護者がいない人の中には、「主介護者はいない/副介護者はいない」と回答した人も含む。

6 要支援認定者の健康・生活

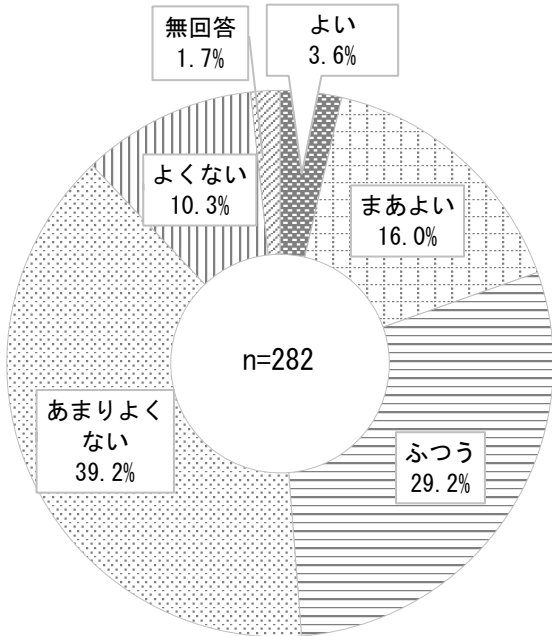
(1) 健康度自己評価

問 52 あなたの現在の健康状態はいかがですか。

「よい」が 3.6%、「まあよい」が 16.0%、「ふつう」が 29.2%、「あまりよくない」が 39.2%、「よくない」が 10.3%であった。

「よい」または「まあよい」と答えた人の割合は、平成 25 年は 20.7%、平成 28 年は 26.4%であり、平成 28 年に比べると今回の調査（19.6%）は、やや減少していた。

認定状況別では、「よい」または「まあよい」の割合は、要支援 1 で 21.9%、要支援 2 で 16.3%であり、要支援 1 の方が高かった。



健康度自己評価 注) 本人回答に限定

健康度自己評価

	人数	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答
総数	282	3.6%	16.0%	29.2%	39.2%	10.3%	1.7%
要支援 1	165	4.1%	17.8%	26.7%	41.8%	8.2%	1.4%
要支援 2	117	3.0%	13.3%	32.6%	35.6%	13.3%	2.2%

注) 本人回答に限定

(2) こころの状態

問 53 近ごろ、あなたは次のように感じることはありますか。(1 つずつ質問)

- (1) 神経過敏に感じましたか
- (2) 絶望的だと感じましたか
- (3) そわそわしたり、落ち着きなく感じましたか
- (4) 気分が沈みこんで、何が起ころうとも気が晴れないように感じましたか
- (5) 何をするのも骨折りだと感じましたか
- (6) 自分は価値のない人間だと感じましたか

こころの状態をたずねた 6 項目の設問について、「いつも/たいてい」と答えた人の割合が高かったのは、「何をするのも骨折りだと感じる」であった (20.4%)。

この 6 項目を加算した K6 という指標は、抑うつ傾向を把握する指標として広く用いられており、得点が高いほど気分・不安障害やうつ傾向が強いことを表す。5 点以上は気分・不安障害の一次スクリーニングのカットオフ値とされ、10 点以上は「気分障害・不安障害に相当する心理的苦痛を感じている者」である可能性が高いとされている。

要支援認定者では、K6 得点が「0～4 点」は 57.4%、「5～9 点」が 27.3%、「10～14 点」が 8.5%、「15 点以上」が 4.6%であった。65 歳以上住民を対象とした「日常生活圏域ニーズ調査」では、気分・不安障害の問題がないと考えられる「0～4 点」の割合は 67.4%であったので、要支援認定者では、問題がない人の割合が 10 ポイント低かった。「0～4 点」の割合は、平成 25 年は 66.5%、平成 28 年は 59.6%であり、年々減少する傾向にあった。

こころの状態

	人数	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	まったく ない	無回答
神経過敏	282	6.2%	4.0%	15.1%	23.9%	47.4%	3.4%
絶望感	282	2.1%	1.3%	7.7%	19.0%	67.5%	2.4%
落ち着きのなさ	282	1.8%	2.1%	10.6%	17.1%	66.0%	2.4%
抑うつ	282	2.9%	2.9%	18.4%	20.8%	52.2%	2.7%
骨折り	282	9.2%	11.2%	20.5%	24.3%	31.6%	3.1%
無価値感	282	2.5%	1.5%	6.5%	20.8%	65.4%	3.2%

注) 本人回答に限定

うつ傾向 (K6 区分)

	人数	0～4 点	5～9 点	10～14 点	15 点以上	不明
総数	282	57.4%	27.3%	8.5%	4.6%	2.1%
要支援 1	165	57.0%	27.3%	9.1%	4.8%	1.8%
要支援 2	117	58.1%	27.4%	7.7%	4.3%	2.6%

注) 本人回答に限定

(3) 低栄養

- 問 54 あなたの身長は何cmですか。
 問 55 体重は何kgですか。
 問 56 過去 3～6 ヶ月間で、意図しないのに体重が減少しましたか。
 問 57 最近、5 日以上にわたって食事を十分に食べることができない病気にかかりましたか。

体格指数 (BMI) は、「普通体重」が 63.3%と最多であったが、「低体重 (18.5 未満)」の割合が 11.7%で、特に要支援 1 で 14.5%と若干高かった。

過去 3～6 ヶ月間で体重が「減少した」人は 14.3%、5 日以上にわたって食事を十分に食べることができない病気にかかった人は 6.3%であった。

これらの回答状況から「低栄養」のリスクを測定する MUST という指標の値を計算した。その結果、要支援認定者全体では「中等度リスク」の人が 10.8%、「高リスク」の人が 18.5%で、3 割程度が栄養不良のリスクを有する可能性が示された。平成 28 年の調査では、「中等度リスク」11.5%、「高リスク」17.9%であったので、概ね同程度であった。

栄養不良の「高リスク」が疑われる人は、要支援 1 で 23.3%、要支援 2 で 11.9%と、要支援 1 の方が多かった。これは、平成 28 年の調査 (要支援 1 : 15.6%、要支援 2 : 21.4%) と逆の結果であった。

体格指数 (BMI 区分)

	人数	低体重 (18.5 未満)	普通体重 (～25 未満)	肥満 1 度 (～30 未満)	肥満 2 度以上 (30 以上)	不明
総数	282	11.7%	63.3%	15.5%	1.4%	8.1%
要支援 1	165	14.5%	62.0%	14.5%	0.6%	8.4%
要支援 2	117	7.7%	65.0%	17.1%	2.6%	7.7%

注1) 本人回答に限定

注2) 体格指数 (Body Mass Index: BMI) = [体重kg] ÷ [身長m]²

過去 3～6 ヶ月間で、意図しないのに体重が減少したか

人数	減少した	減少していない	わからない	無回答
282	14.3%	80.4%	2.9%	2.3%

注) 本人回答に限定

最近、5 日以上にわたって食事を十分に食べることができない病気にかかったか

人数	はい	いいえ	無回答
282	6.3%	90.2%	3.4%

注) 本人回答に限定

低栄養リスク (MUST 区分)

	人数	低リスク	中等度リスク	高リスク
総数	282	70.6%	10.8%	18.5%
要支援 1	165	67.1%	9.6%	23.3%
要支援 2	117	75.6%	12.6%	11.9%

注) 本人回答に限定

(4) 外出頻度

問 58 あなたは、週に何日くらい外出しますか。通院、買い物、散歩など、外出の目的は問いません。

通勤、通院、買い物なども含めた外出頻度は、「ほぼ毎日」が 23.4%、「週に 4～5 日」が 25.9%、「週に 2～3 日」が 30.9%、「週に 1 日」が 9.9%であった。週に 1 日未満の、いわゆる「閉じこもり」が疑われる人の割合は 7.8%であった。

「週に 1 日未満」の割合は、平成 25 年は 10.9%、平成 28 年は 9.9%であったので、若干減少傾向であった。

認定状況別にみると、「ほぼ毎日」の割合は、要支援 1 で 26.2%、要支援 2 で 19.5%と、要支援 1 の方が高かった。平成 28 年の調査では、要支援 1 では「ほぼ毎日」が 42.5%であったので、要支援 1 の人の外出が特に減少していた。

外出頻度

	人数	ほぼ毎日	週 4～5 日	週 2～3 日	週 1 日 くらい	月に 1～3 日	それより 少ない	無回答
総数	282	23.4%	25.9%	30.9%	9.9%	4.6%	3.2%	2.1%
要支援 1	165	26.2%	28.0%	27.4%	10.4%	4.3%	1.8%	1.8%
要支援 2	117	19.5%	22.9%	35.6%	9.3%	5.1%	5.1%	2.5%

注) 本人回答に限定

(5) 社会関係

- 問 59 あなたは、別居のお子さんやご親戚とは、どのくらいの頻度で会ったり、電話やメールなどで連絡をとったりしていますか。
- 問 60 お友達とは、どのくらいの頻度で会ったり、電話やメールなどで連絡をとったりしていますか。
- 問 61 ご近所の人とは、どのくらいの頻度で会ったり、電話やメールなどで連絡をとったりしていますか。

別居親族との交流頻度は、「週に2回以上」が32.8%と最多で、次いで「週に1回」が19.5%であった。「ほとんどない/別居親族はいない」という人は16.4%で、平成25年(21.0%)や平成28年(15.6%)と比べると概ね同程度で推移していた。要支援1よりも要支援2の方が、別居親族との交流が多い傾向がみられた。

友人との交流頻度は、「ほとんどない」が39.5%と最多で、次いで「週に2回以上」が19.4%と二極化していた。「ほとんどない」の割合は、平成25年(33.4%)や平成28年(30.2%)と比べると増加していた。要支援1と要支援2で大きな違いはみられなかった。

近所の人との交流頻度は、「ほとんどない」が44.5%と最多で、次いで「週に2回以上」が24.7%と二極化していた。「ほとんどない」の割合は、平成25年が36.8%、平成28年が40.5%で、年々増加していた。要支援1と要支援2で大きな違いはなかった。

別居親族との交流頻度

	人数	週に 2回以上	週に 1回	月に 2～3回	月に 1回	月に1回 より少ない	ほとんど ない	別居の親族 はいない	無回答
総数	282	32.8%	19.5%	10.3%	11.5%	7.8%	11.2%	5.2%	1.7%
要支援1	165	28.8%	19.2%	14.4%	12.3%	7.5%	12.3%	4.1%	1.4%
要支援2	117	38.5%	20.0%	4.4%	10.4%	8.1%	9.6%	6.7%	2.2%

注) 本人回答に限定

友人との交流頻度

	人数	週に 2回以上	週に 1回	月に 2～3回	月に 1回	月に1回 より少ない	ほとんど ない	無回答
総数	282	19.4%	11.3%	8.6%	10.1%	9.6%	39.5%	1.4%
要支援1	165	18.5%	11.0%	11.0%	8.9%	9.6%	39.7%	1.4%
要支援2	117	20.7%	11.9%	5.2%	11.9%	9.6%	39.3%	1.5%

注) 本人回答に限定

近所の人との交流頻度

	人数	週に 2回以上	週に 1回	月に 2～3回	月に 1回	月に1回 より少ない	ほとんど ない	無回答
総数	282	24.7%	10.2%	6.1%	6.3%	6.5%	44.5%	1.8%
要支援1	165	25.3%	9.6%	6.2%	7.5%	2.7%	46.6%	2.1%
要支援2	117	23.7%	11.1%	5.9%	4.4%	11.9%	41.5%	1.5%

注) 本人回答に限定

(6) 社会的支援

問 62 次の人たちは、どのくらい、健康や生活、福祉のことで相談にのってくれたり、情報を提供してくれますか。

問 63 次の人たちは、どのくらい、あなたの話を聞いてくれたり、理解してくれますか。

問 64 日頃の生活でちょっとした手助けが必要なとき、次の人たちはどのくらい手助けをしてくれますか。

((1)～(4)について1つずつ質問)

- (1) あなたの同居の家族
- (2) 別居の家族や親族
- (3) 知人・友人・近隣の人
- (4) 医療・福祉の専門職

「健康や生活、福祉のことでの相談（情動的支援）」「話を聞いてくれたり、理解してくれる（情緒的支援）」「日頃の生活のちょっとした手助け（手段的支援）」のいずれの支援も「同居家族」や「別居親族」から得ている人が多かった。

同居家族については、いずれの支援についても「かなりある」と回答した人が4割弱であった。別居親族については、「かなりある」と回答した人が、手段的支援では3割強、情動的支援や情緒的支援では4割弱であった。知人・友人・近隣の人では、「かなりある」と回答した人が、手段的支援では1割未満であったが、情動的支援や情緒的支援では1割強であった。医療福祉の専門職については、「かなりある」と回答した人が、情動的支援で22.9%、情緒的支援で14.7%、手段的支援で3.5%であった。

いずれの支援に関しても、平成25年・平成28年の調査結果と大きな違いはなかった。

社会的支援

		かなりある	いくらかある	少しある	まったくない	該当者がいない	無回答
情動的支援	同居家族	36.9%	9.5%	4.2%	6.8%	41.0%	1.7%
	別居親族	38.0%	20.6%	21.9%	12.2%	5.3%	2.0%
	知人・友人・近隣の人	11.1%	14.1%	21.1%	41.5%	10.2%	2.0%
	医療福祉の専門職	22.9%	24.5%	24.1%	22.0%	4.4%	2.0%
情緒的支援	同居家族	37.3%	9.0%	6.2%	5.3%	40.3%	2.0%
	別居親族	38.4%	22.8%	19.9%	11.2%	5.7%	2.0%
	知人・友人・近隣の人	14.3%	14.3%	26.3%	32.4%	10.4%	2.3%
	医療福祉の専門職	14.7%	21.3%	23.6%	34.7%	3.7%	2.0%
手段的支援	同居家族	39.1%	7.8%	5.0%	5.0%	40.7%	2.4%
	別居親族	33.5%	21.8%	15.6%	20.5%	6.5%	2.0%
	知人・友人・近隣の人	5.8%	10.3%	18.3%	52.2%	11.3%	2.0%
	医療福祉の専門職	3.5%	8.8%	14.5%	65.4%	5.7%	2.0%

注) 本人回答に限定(総数は282人)

社会的支援（「かなりある」という人の割合）

		人数	同居家族	別居親族	知人・友人・ 近隣の人	医療福祉の 専門職
情報の 支援	総数	282	36.9%	38.0%	11.1%	22.9%
	要支援1	165	38.4%	34.9%	8.9%	19.2%
	要支援2	117	34.8%	42.2%	14.1%	28.1%
情緒的 支援	総数	282	37.3%	38.4%	14.3%	14.7%
	要支援1	165	37.0%	35.6%	15.1%	17.8%
	要支援2	117	37.8%	42.2%	13.3%	10.4%
手段的 支援	総数	282	39.1%	33.5%	5.8%	3.5%
	要支援1	165	39.0%	31.5%	6.2%	3.4%
	要支援2	117	39.3%	36.3%	5.2%	3.7%

注）本人回答に限定

(7) 生活満足度

問 65 全体として、ご自分の生活にどのくらい満足していますか。

「非常に満足」または「まあまあ満足」と答えた人が 69.7%、「どちらともいえない」が 12.3%、「あまり満足していない」または「まったく満足していない」と答えた人が 16.6%であった。

「非常に満足」と「まあまあ満足」の合計は、平成 25 年の調査では 75.7%、平成 28 年は 74.7%であったことから、今回の調査では、やや減少していた。

認定状況別では、「非常に満足」と「まあまあ満足」の合計割合は、要支援 1 では 69.9%、要支援 2 では 69.7%で、大きな違いはなかった。

生活満足度

	人数	非常に満足	まあまあ満足	どちらともいえない	あまり満足していない	まったく満足していない	無回答
総数	282	12.5%	57.2%	12.3%	13.9%	2.7%	1.3%
要支援 1	165	13.0%	56.9%	13.7%	13.7%	2.1%	0.7%
要支援 2	117	11.9%	57.8%	10.4%	14.1%	3.7%	2.2%

注) 本人回答に限定

(8) 生活上の不安

問 66 あなたは、現在の生活で、次のような不安がありますか。(1 つずつ質問)

- (1) 必要な時に十分な医療を受けられないこと
- (2) 必要な時に十分な介護サービスを受けられないこと
- (3) 急に具合が悪くなった時に対応してくれる人がいないこと
- (4) 生活費など経済的なこと
- (5) 住居に関すること
- (6) 地震や水害などの災害発生時の避難や安全確保に関すること
- (7) 犯罪やサギの被害にあうこと

「大いに不安」「まあまあ不安」の割合は、「災害発生時の避難や安全確保」が 47.3%と最も高く、次いで「急に具合が悪くなった時に対応してくれる人がいない」で 40.7%、「犯罪」34.1%、「介護」30.0%、「医療」27.9%、「経済」26.6%、「住居」11.0%の順であった。平成 25 年・平成 28 年と比べて、「犯罪」や「経済」に関する不安が増加していたが、それ以外の項目については改善または維持であった。('災害'については今回のみ質問。)

認定状況別では、要支援 2の方が要支援 1に比べて「体調不良時」に関する不安の割合が高かったが、その他の項目では、要支援 1と要支援 2で大きな違いはなかった。

生活上の不安

		人数	大いに不安	まあまあ不安	あまり不安はない	わからない	無回答
医療	総数	282	5.9%	22.0%	68.0%	2.6%	1.4%
	要支援 1	165	4.8%	21.9%	68.5%	3.4%	1.4%
	要支援 2	117	7.4%	22.2%	67.4%	1.5%	1.5%
介護	総数	282	10.9%	19.1%	59.0%	9.7%	1.4%
	要支援 1	165	14.4%	15.8%	58.2%	10.3%	1.4%
	要支援 2	117	5.9%	23.7%	60.0%	8.9%	1.5%
体調不良時	総数	282	18.5%	22.2%	56.4%	1.5%	1.4%
	要支援 1	165	16.4%	20.5%	59.6%	2.1%	1.4%
	要支援 2	117	21.5%	24.4%	51.9%	0.7%	1.5%
経済	総数	282	6.5%	20.1%	70.8%	1.2%	1.4%
	要支援 1	165	6.8%	19.2%	70.5%	2.1%	1.4%
	要支援 2	117	5.9%	21.5%	71.1%	0.0%	1.5%
住居	総数	282	4.2%	6.8%	86.9%	0.8%	1.4%
	要支援 1	165	3.4%	6.8%	87.0%	1.4%	1.4%
	要支援 2	117	5.2%	6.7%	86.7%	0.0%	1.5%
災害発生時	総数	282	18.8%	28.5%	46.1%	5.2%	1.4%
	要支援 1	165	20.5%	28.8%	45.2%	4.1%	1.4%
	要支援 2	117	16.3%	28.1%	47.4%	6.7%	1.5%
犯罪	総数	282	12.9%	21.2%	58.5%	5.6%	1.8%
	要支援 1	165	13.7%	19.9%	59.6%	4.8%	2.1%
	要支援 2	117	11.9%	23.0%	57.0%	6.7%	1.5%

注) 本人回答に限定

(9) 暮らし向き、年収等

- 問 67 あなたの暮らしむきは、全般的にどれにあたりますか。
- 問 68 ○○さん（要支援認定者）ご自身と配偶者の方をあわせて、昨年1年間の収入は、おいくらくらいになりますか。一時的な収入は除いてお答えください。
配偶者がいない場合は、○○さんご自身の収入でお答えください。
- 問 69 あなたが最後に出られた学校は、次のうちどれですか。

暮らし向きについて、「かなり苦しい」または「やや苦しい」と答えた人が14.0%、「やや余裕がある」または「余裕がある」と答えた人は16.5%であった。

「かなり苦しい/やや苦しい」の合計は、平成25年は13.4%、平成28年は11.1%であったことから、今回も概ね同様の結果であった。認定状況別では、要支援1と要支援2で大きな違いはなかった。

要支援認定者の世帯年収は、「120～240万円未満」が28.0%と最多で、次いで「240～360万円」が23.5%であった。

回答者の学歴は、「高校卒」が48.9%と最多で、次いで「大学、大学院卒」が19.7%であった。

暮らし向き

	人数	かなり苦しい	やや苦しい	ふつう	やや余裕がある	余裕がある	無回答
総数	282	4.2%	9.8%	68.1%	10.6%	5.9%	1.4%
要支援1	165	3.4%	11.0%	66.4%	10.3%	7.5%	1.4%
要支援2	117	5.2%	8.1%	70.4%	11.1%	3.7%	1.5%

注) 本人回答に限定

年収

人数	120万円未満	120～240万円未満	240～360万円未満	360～480万円未満	480～600万円未満	600～720万円未満	720～840万円未満	840万円以上	無回答
282	18.5%	28.0%	23.5%	9.3%	2.8%	0.6%	1.0%	1.4%	14.9%

注) 本人回答に限定

学歴

人数	学校へは行かなかった	中学校卒	高校卒	短大 高専卒	大学 大学院卒	無回答
282	0.7%	19.1%	48.9%	8.8%	19.7%	2.8%

注) 本人回答に限定

7 結果の概要と今後の課題

(1) 要支援認定者のサービスニーズや生活の経年変化から見える課題

平成25年、平成28年に実施した調査の結果と、今年度（令和元年）に実施した調査の結果を比較し、要支援認定者や家族介護者のサービスニーズや生活等の変化を調べた。なお、各調査の回収状況が異なるため、調査結果の単純な比較には一定の注意が必要であるが、概況を把握する上での参考資料になり得る。

経年的に改善傾向が認められたのは、介護・医療サービスに関する項目では、ショートステイの満足度、訪問リハビリテーションの利用率、福祉用具の貸与・購入費用支給の利用率、訪問診療・往診の利用率であった。ショートステイは、利用したい時にすぐに利用できるわけではないため、介護サービスの中では相対的に満足度の低いサービスであるが、平成25年に比べて12ポイント程度、「非常に/わりと満足」の割合が高まっており、かなりの改善が認められた。訪問リハビリテーション、訪問診療、往診は、他の介護サービスに比べると利用率は低いが、要支援認定者の重度化防止や在宅生活を維持する上で重要なサービスであり、これらの利用が増加傾向であることは、在宅生活を支える基盤整備の進展として評価できる。

要支援認定者の活動や生活面では、外出頻度が「週に1回未満」の、いわゆる閉じこもりのリスクが疑われる人の割合が経年的に減少していた。要支援認定者の外出が促進されることによって、重度化防止や孤立防止等の効果が期待できる。さらに、必要な時に十分な介護サービスを受けられない、急に具合が悪くなったときに対応してくれる人がいない、住居に関することについて「非常に/やや不安」と答えた人の割合が、経年的に減少しているといった改善も認められた。これらの点も、要支援認定者の在宅生活を支える上で、一定の成果が得られていると評価できる。

改善傾向が認められた項目

分野	項目	平成25年	平成28年	令和元年
サービス	ショートステイ「非常に/わりと満足」	57.2%	66.6%	69.6%
	訪問リハビリテーションの利用率	5.7%	7.7%	8.5%
	福祉用具の貸与・購入費用支給の利用率	25.9%	28.9%	34.5%
	訪問診療、往診の利用率	3.7%	4.2%	5.4%
活動	外出頻度「週に1回未満」	10.9%	9.9%	7.8%
生活環境	必要な時に十分な介護サービスを受けられないことについて「非常に/やや不安」	41.3%	32.0%	30.0%
	急に具合が悪くなったときに対応してくれる人がいないことについて「非常に/やや不安」	45.4%	44.5%	40.7%
	住居に関することについて「非常に/やや不安」	16.0%	12.2%	11.0%

一方で、改善が認められなかった項目も多数あった。悪化した項目に着目すると、訪問介護サービスの利用率と満足度について低下傾向が認められた。要支援認定者の介護予防訪問介護は、平成28年度から市が主体となって実施する「介護予防・日常生活支援総合事業」に移行した。これに伴い、従前相当のサービスだけでなく、市が独自にサービス基準や利用料を設定する基準緩和型のサービスも実施している。市が認定する「みたか ふれあい支援員」による訪問介護サービスも提供しているが、ふれあい支援員を「利用中/利用を希望・検討」している人の割合は、平成28年より5ポイント程度減少していた。要支援認定者の場合、訪問介護の回数や時間が限られているため、それが不満につながる可能性がある。今回の調査では、訪問介護の利用者のうち39.1%は「週に2回以上」を希望していたが、実際に「週に2回以上」利用していたのは21.0%であった。このような回数や時間の制限が満足度の低下につながった可能性とともに、訪問介護員の人財不足の影響を受けている可能性もある。訪問介護は、要支援認定者の在宅生活を支える重要な介護サービスなので、介護予防・日常生活支援総合事業の内容やふれあい支援員の活用等も含め、さらなる対応策の検討が必要である。

健康や生活の面では、気分・不安障害のリスクが低い人の割合が減少し、メンタルヘルスの問題が懸念された。友人や近所の人との交流がほとんどない人の割合も増加しており、社会的孤立の問題も懸念される。要支援認定者に関しては、介護サービスだけでなく、地域住民によるサポートや地域の「通いの場」等を活用することで介護予防を図ることも重要とされているが、近所の人との交流がほとんどない人が4割を占め、友人や近所の人から情動的・情緒的・手段的支援をまったく得ていない人も3～5割という状況であった。住民による支え合い活動に関しては、まだ十分でない可能性が示された。

さらに、犯罪や詐欺の被害について不安に感じている人も、平成28年より12ポイント増加していた。今回の調査回答者の38.0%は単身世帯で、32.9%が夫婦二世帯であることから、犯罪や詐欺に関する不安も大きいであろう。単身世帯や高齢者夫婦世帯が安心して暮らせる防犯対策についても、重要な検討課題である。

悪化傾向が認められた項目

分野	項目	平成25年	平成28年	令和元年
サービス	訪問介護サービスの利用率	33.7%	30.6%	26.2%
	訪問介護サービス「非常に/わりと満足」	90.3%	90.0%	85.2%
	ふれあい支援員を「利用中/利用を希望・検討」	—	27.8%	23.6%
健康	気分・不安障害の問題がない人(K6得点が0～4点)	66.5%	59.6%	57.4%
孤立	友人との交流が「ほとんどない」	33.4%	30.2%	39.5%
	近所の人との交流が「ほとんどない」	36.8%	40.5%	44.5%
生活環境	自分の生活に「非常に/まあまあ満足」	75.7%	74.7%	69.7%
	犯罪やサギの被害にあうことについて「非常に/やや不安」	24.8%	21.9%	34.1%
	生活費など経済的なことについて「非常に/やや不安」	18.4%	21.4%	26.6%

改善・悪化の傾向が認められなかった項目

分野	項目	平成25年	平成28年	令和元年
サービス	要介護認定結果「非常に/わりと満足」	72.5%	74.5%	69.5%
	ケアマネジャー「非常に/わりと満足」	84.1%	86.7%	83.9%
	ケアプラン「非常に/わりと満足」	62.4%	57.9%	62.7%
	ショートステイの利用率	2.5%	2.5%	1.9%
	ショートステイ未利用者のうち、「利用を希望/検討」	8.5%	4.9%	6.2%
	訪問介護サービス未利用者のうち、「利用を希望/検討」	16.2%	10.2%	10.8%
	通所サービスの利用率	31.8%	33.2%	33.5%
	通所サービス「非常に/わりと満足」	89.2%	82.4%	87.7%
	通所サービス未利用者のうち、「利用を希望/検討」	9.3%	7.6%	10.1%
	訪問看護サービスの利用率	1.5%	4.9%	4.6%
	訪問看護サービス「非常に/わりと満足」	100.0%	80.0%	79.1%
	訪問看護サービス未利用者のうち、「利用を希望/検討」	8.5%	2.5%	5.7%
	市独自基準の訪問型サービスを「利用中/利用を希望・検討」	—	27.0%	26.0%
	市独自基準の通所型サービスを「利用中/利用を希望・検討」	—	23.7%	21.9%
	サービス利用料の自己負担「非常に/多少負担」	31.0%	31.2%	29.7%
健康	身体機能障害「なし/軽度」	92.5%	91.7%	94.2%
	認知機能障害「なし/境界的」(CPS)	—	88.8%	87.0%
	健康状態「良い/まあ良い」	20.7%	26.4%	19.6%
	低栄養「高リスク」	—	17.9%	18.5%
孤立	別居の子どもや親戚との交流が「ほとんどない/別居親族はいない」	21.0%	15.6%	16.4%
生活環境	必要な時に十分な医療を受けられないことについて「非常に/やや不安」	34.4%	27.2%	27.9%
	暮らし向き「かなり苦しい/やや苦しい」	13.4%	11.1%	14.0%
家族	主介護者がいない	30.6%	36.3%	31.0%
	主介護者は「65歳以上」	48.3%	37.9%	50.6%
	主介護者は「毎日かかりきり」で介護	11.3%	7.4%	9.8%
	主介護者は「仕事をしていない」	57.5%	47.6%	50.1%

(2) 第7期介護保険事業計画の主な項目に関する現状と課題

1) 介護保険サービス等の充実

(1) 介護保険・介護予防・生活支援サービス

全体的には、本調査で調べたサービス等に関して、要支援認定者の利用実績と利用希望との間に大きな乖離はなかったことから、利用希望をある程度充足できているとみなせる。上述のように、各サービスの利用率や満足度も概ね維持されており、訪問リハビリテーションや訪問診療など一部のサービスでは微増ながらも改善が認められた。要支援認定者において利用率の高い福祉用具の貸与・購入費用支給についても利用率の向上が認められ、要支援認定者に対する介護等のサービスは、概ね順調に実施できていると考えられる。

しかし、主要なサービスの1つである訪問介護に関しては、利用率や満足度の低下が認められ、基準緩和型サービスとして平成28年から導入した「みたか ふれあい支援員」に関しても利用や利用希望が伸び悩んでいた。市が主体となって実施する「介護予防・日常生活支援総合事業」については、さらなる検討が求められている。

(2) サービス利用料

サービス利用料の自己負担割合は、収入に応じて1～3割負担の区分となったが、3割負担の人では45.9%がサービス利用料の自己負担が家計にとって「非常に/多少負担」と答えていた（1割負担の人では「非常に/多少負担」は26.9%）。

経済的な理由で、介護保険サービスを「利用できなかった」または「時間や回数を制限した」ことのある人は、「ショートステイ」2.0%、「訪問介護」5.4%、「通所サービス」3.8%、「訪問看護」2.7%で、割合は低いものの、経済的な理由によるサービスの利用抑制も生じていた。

2) 安全・安心の生活の確保

(1) 防犯・防災対策

犯罪や詐欺の被害に遭うことを不安に感じている人が3割以上いることから、防犯対策が重要な課題として示された。災害発生時の避難や安全確保に関して不安に感じている人も半数近くいたことから、災害時に備えた平時からの準備も重要な課題である。

「避難行動要支援者名簿」に登録している人は16.8%であったが、登録希望者は30.5%いたので、このような取組について周知を図り、希望者の登録を進める必要がある。要支援認定者においては、一般の避難所だけでなく、福祉避難所も利用する可能性があるが、福祉避難所の場所を知っている人は16.7%にとどまった。災害時の避難方法や避難経路、日頃の備えなどについて、防災や医療・福祉の専門職から助言や指導を受けたことがある人は9.3%と少なく、「受けたことはないが、受けたい」という人が30.6%いた。要支援や要介護の高齢者では、災害時に一般の人以上の配慮や注意が必要となることから、平時から避難場所や避難経路、避難方法などを本人や家族に認識してもらうような取組を、防災関連の部署と連携して進めていかなければならない。

(2) 健康面での課題

要支援認定者では、気分・不安障害の問題を有する人の割合が増加する傾向がみられたことから、精神的なケアについて課題が示された。また、3割程度が、中程度以上の栄養不良のリスクを有する可能性も示された。軽度以上の認知機能障害が疑われる人も1割程度いた。うつ予防、低栄養予防、認知症予防については、運動器の機能向上に比べて介護予防のプログラム等が少ないが、通所型・訪問型のサービス利用だけでなく、地域の介護予防のための「通いの場」等も活用して、うつ予防、低栄養予防、認知症予防につながる可能性のある活動を推進していく必要がある。

(3) 孤立防止と地域での支え合い

友人や近所の人との交流がほとんどない人の割合が増加しており、社会的孤立の問題も懸念された。地域ケアネットワーク等の地域住民による支援活動が市内の各地域で推進され、見守りや声かけ、通いの場づくり等の支え合い活動が展開されているが、要支援認定者においては、近所の人との交流がほとんどない人が4割を占め、地域住民による支え合い活動に関して、まだ十分に普及していない可能性が示された。要支援認定者の孤立防止や社会活動への参加の促進、地域における支え合い活動の充実のための支援を、さらに推進していくことが求められている。

